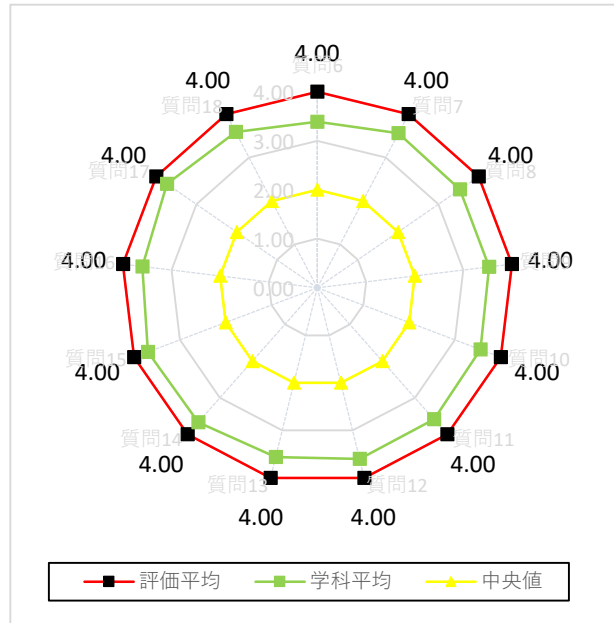
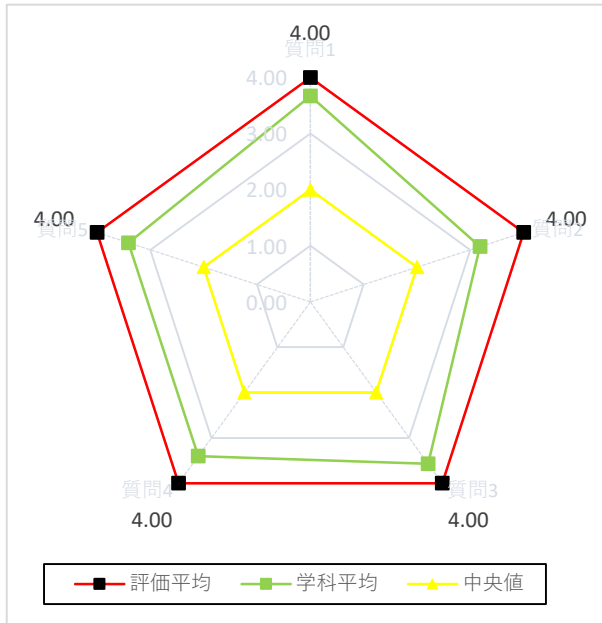


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		あすなろう I 基礎 (初 年次教育含)	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

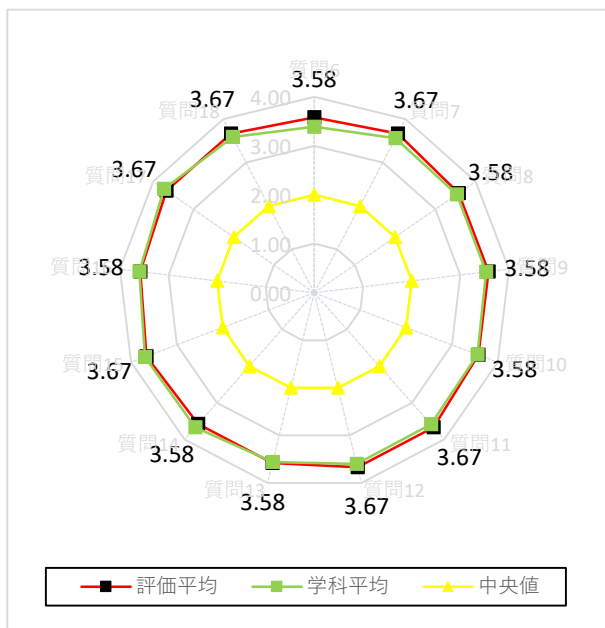
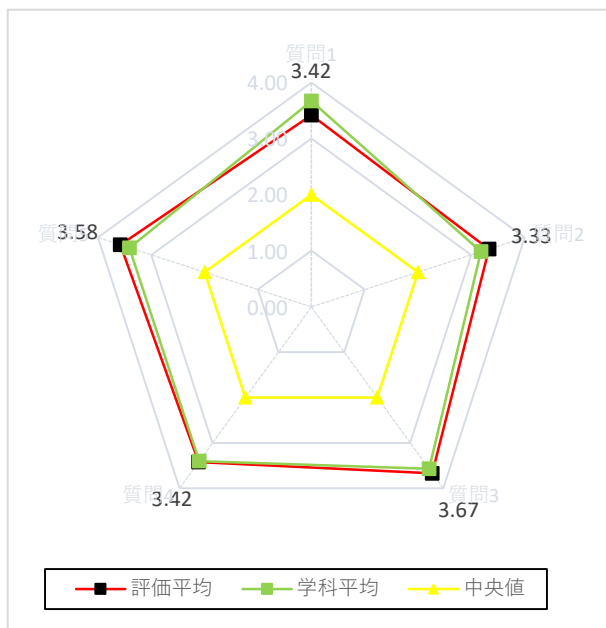
学科平均と比較し、全項目で平均値を上回る点数であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

本結果に関し、チューターの学生との密な関わり合いが良かったのではないかとと思う。次年度も継続して学生との密な関わり合いをしていけるよう、心がけたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		あすなろう I 基礎 (初年次教育含)	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

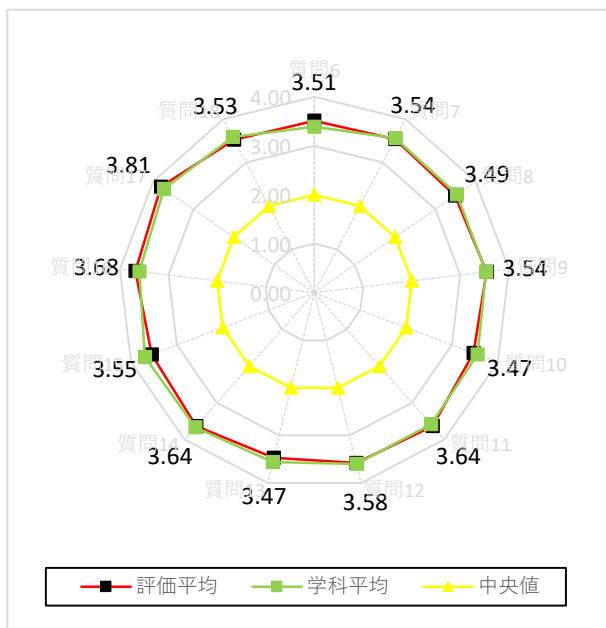
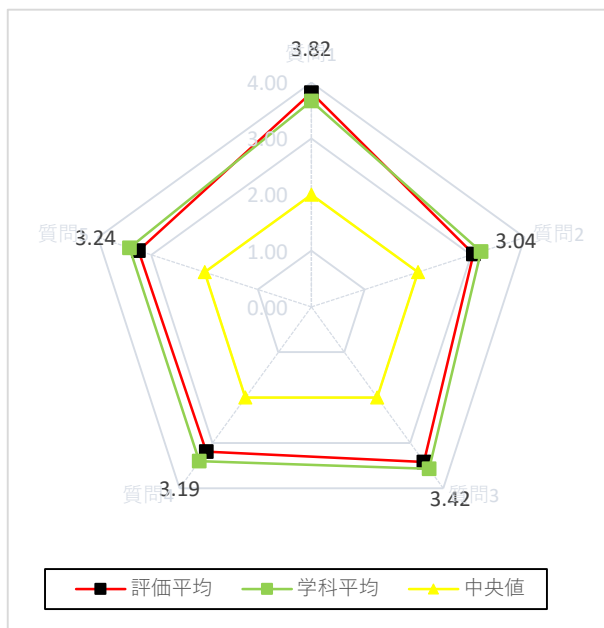
例年質問6の評価が低かったが、毎回授業の内容を確認しながら進めていったので今年度の結果は高かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

コロナ禍でボランティアへの参加が危惧されたが、早めの対策で活動ができて良かった。次年度も、早めにボランティアへ参加するよう促す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部 子ども学部	リハビリテーション 子ども 心理カウンセリング		文学と言語	97名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

今年度は、ZoomからTeamsに変わったため、Teamsを使い慣れるまでにかなりの時間を要した。指導に当たっては昨年度に引き続き、「遠隔授業において、個に応じた指導をどのように展開していくか」を目標に実践をしてきた。授業終了後、各受講生の「読みの変容」「学びの振り返り」などを私の方で集約したものを共有資料として、次週の授業に生かしていくという授業スタイルを確立することができ、受講生の評価も高かった。【質問6・7・9・11・16・17】

やや低い評価であった【質問15】に関しては、授業中の指名が偏っていたのではないかとと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

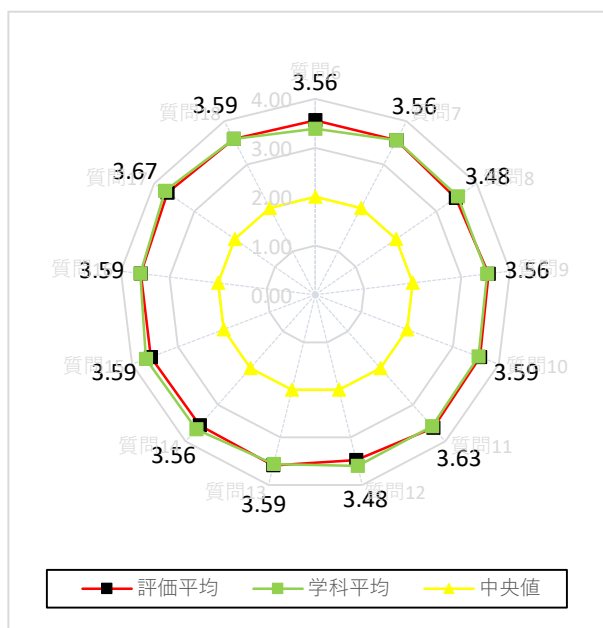
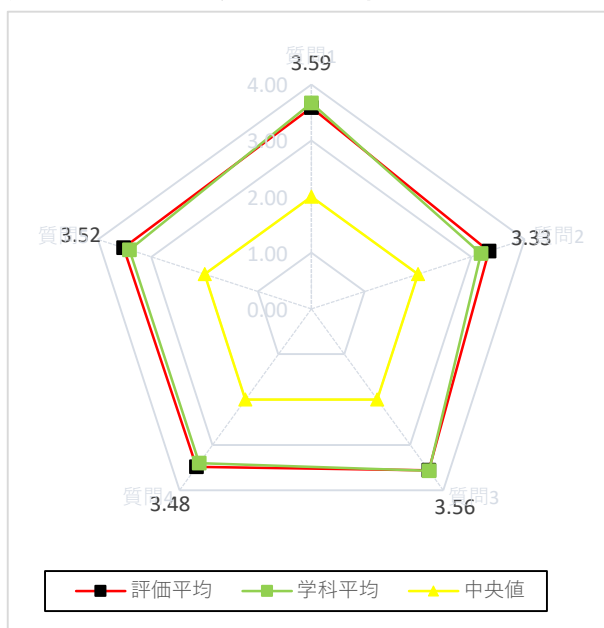
・私は本年度で退職ゆえ、次年度に本科目を担当することはないが、この二年間、受講生が意欲的かつ楽しく「文学と言語」に親しむことのできる、遠隔授業の在り方を求めてきた。とりわけ、教材研究の重要性、指導事項の精選、受講生の学びの過程の把握の面において、多くの成果を得ることができたのは喜びである。

・受講生のコメントに「友達の意見に学ぶことができた」「文学に興味をもつことができ、これからたくさん本を読んでいきたい」という声があった。

・受講生の回答率は、76.2%であった。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		Basic English I	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

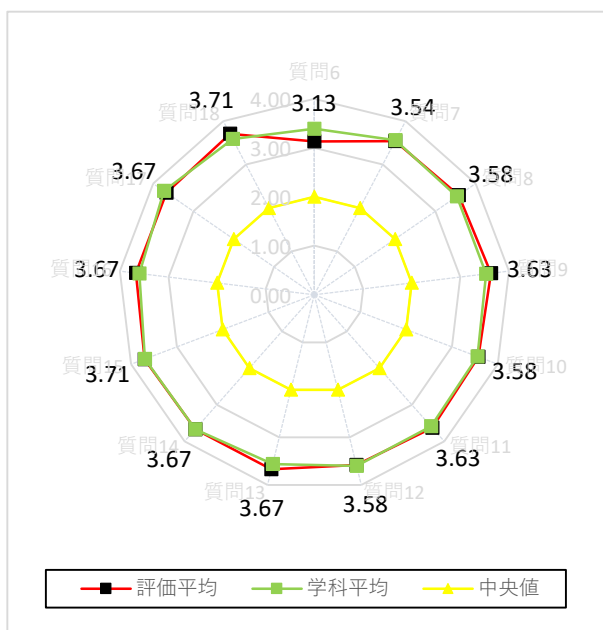
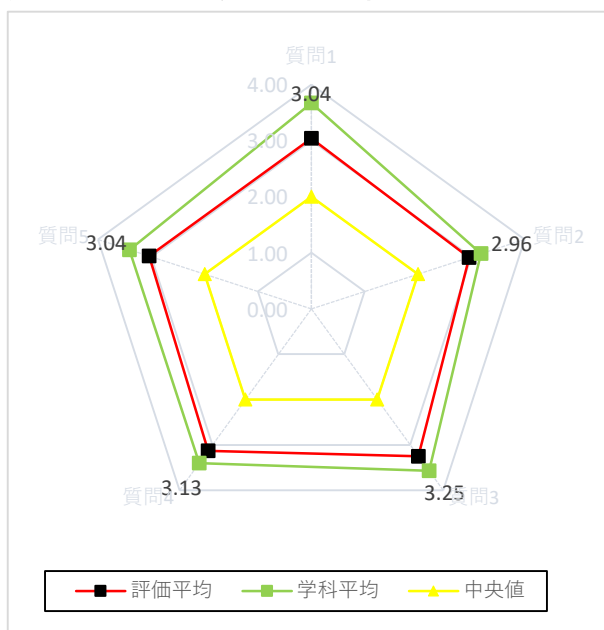
比較的の回答率が高い。評価も高い。完全オンラインという形式でこの評価が嬉しく思う。学生側も教員側も頑張ったということを示している。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度開講無し

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		Basic English II	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

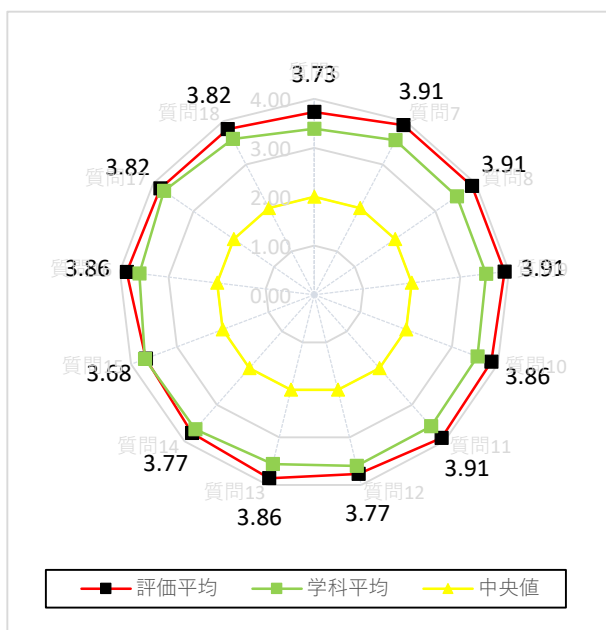
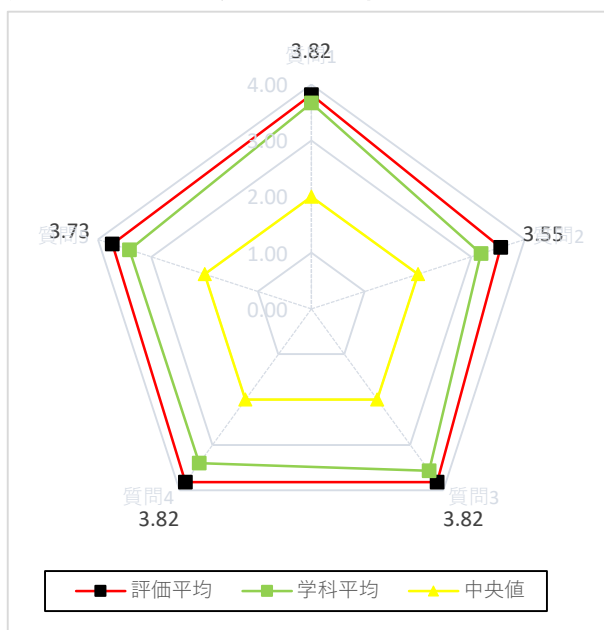
高い評価を受けた。シラバスの説明したが、評価が低かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度講開無し

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		Global English I	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

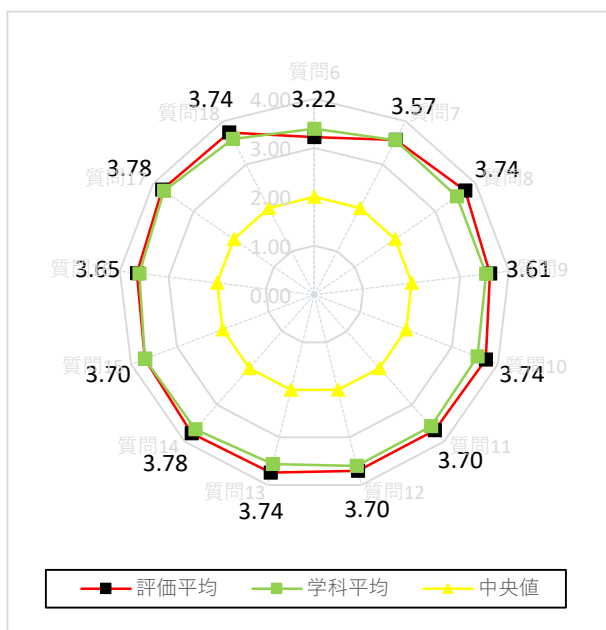
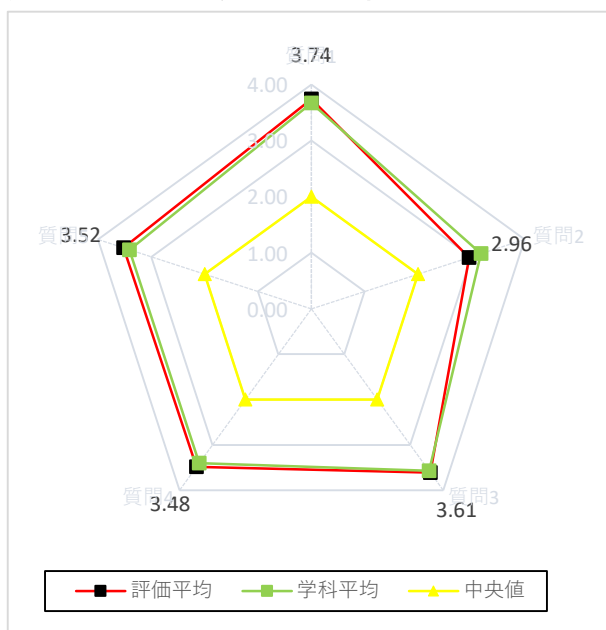
とても高い評価を受けた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度講開無し

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		Global English II	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

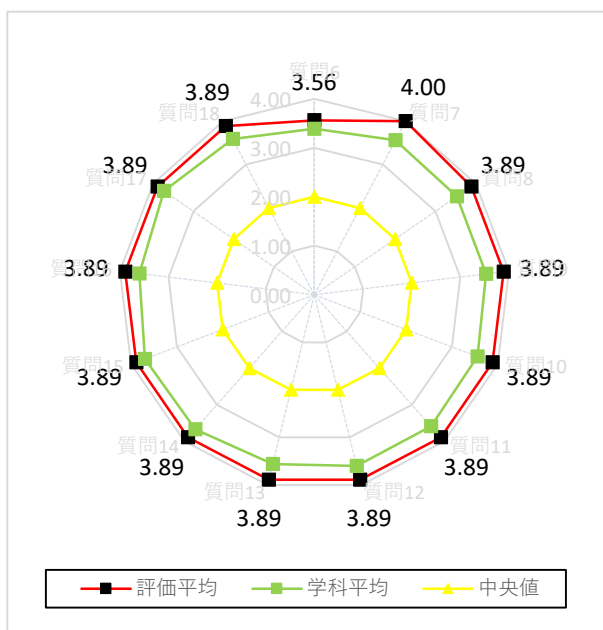
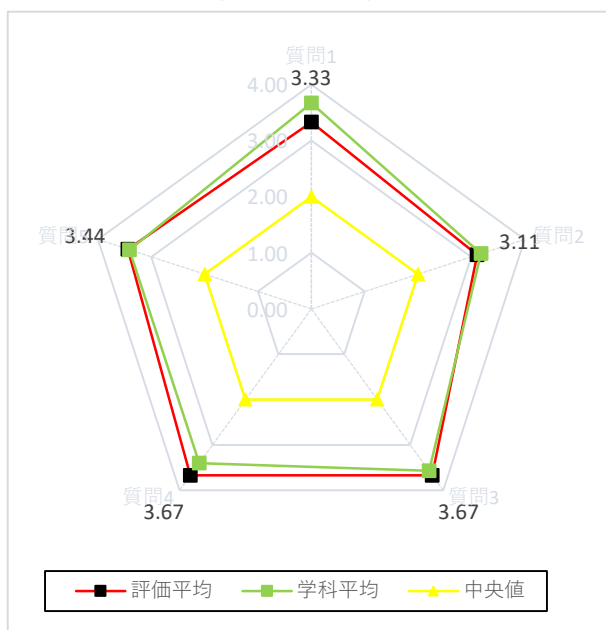
シラバスの活用と説明の評価はいまいちだった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度講開無し

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		医学英語	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

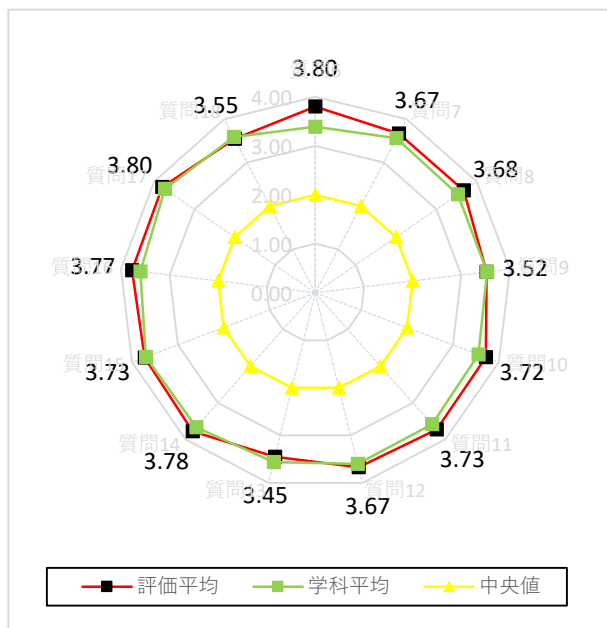
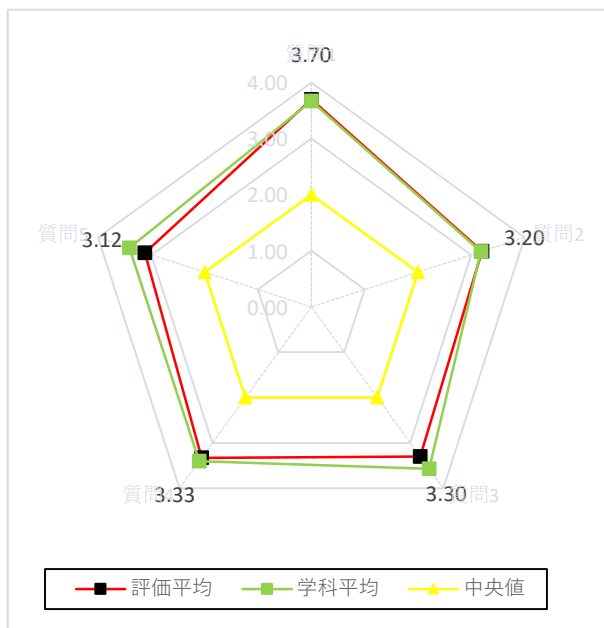
全ての項目について高い評価をいただいた。質問6について、授業計画は1回目の講義で説明はしているが、学生へ伝わっていないことが考えられるため、学生が理解しやすいように改善する。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は計8回の講義になるため、学生が楽しく理解できるように更に講義や事前学習、事後学修を改善し、国際的な知見に興味をもっていただけるように更に工夫をしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学 I	79名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

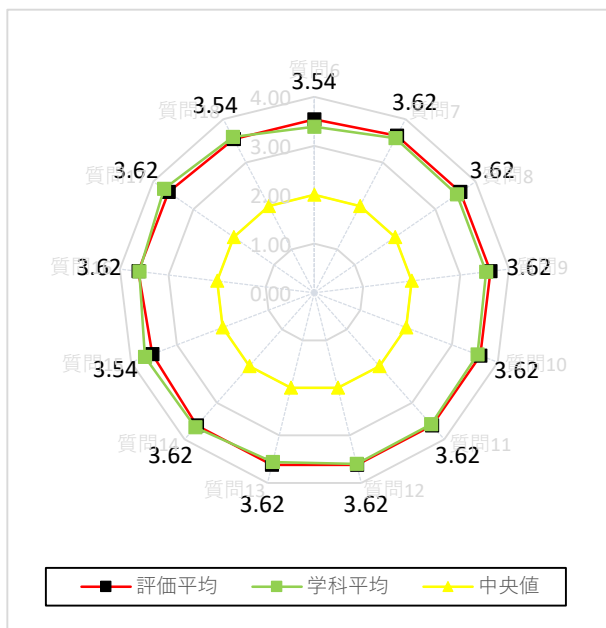
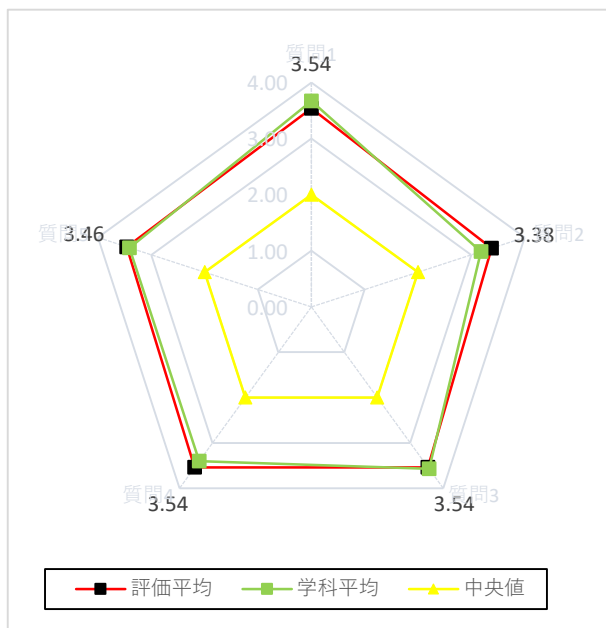
講義中に国家試験問題を考える時間を取り入れ、理解度を確認することができた。

(3) 次年度に向けての取り組み

理解度をより高めるため動画で説明している教科書を採用する等、講義内容を工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学Ⅱ	77名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

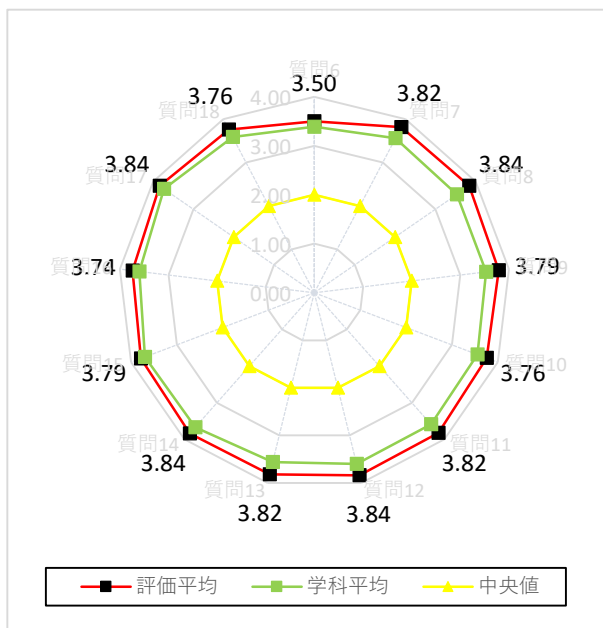
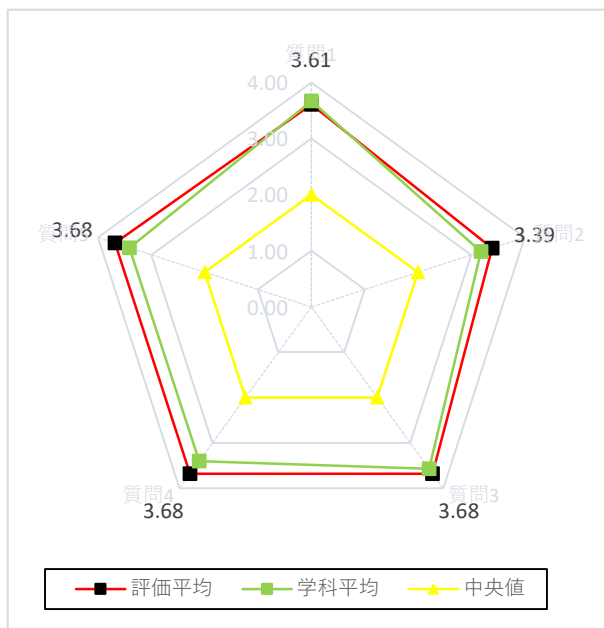
講義の復習プリントを配布し、授業内容がより理解しやすいように努めた。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度講義で使用した復習プリントを、来年度は講義中に使用して役立てたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学実習	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

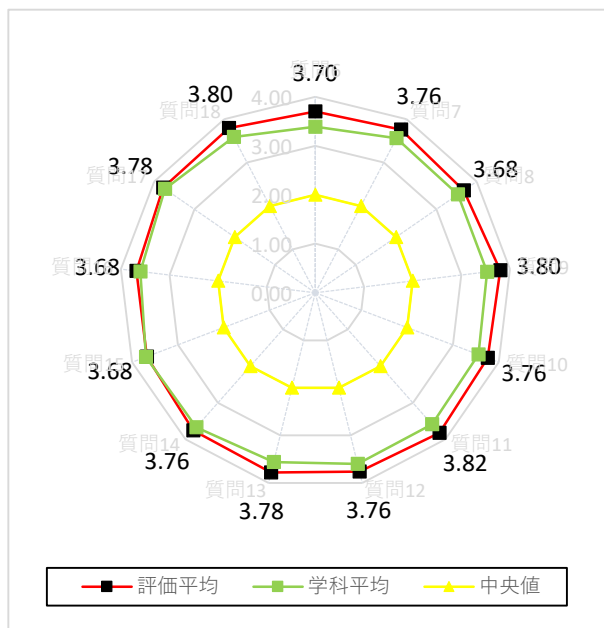
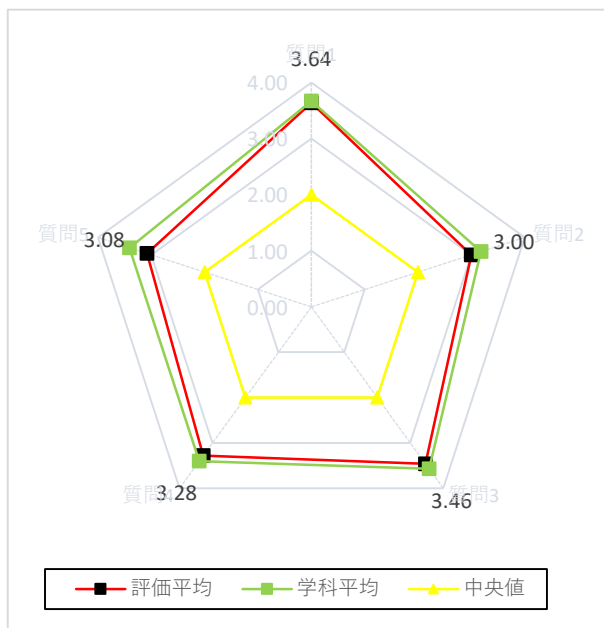
学科平均と比較し、ほとんどの質問項目が同等の評価結果であったが、質問6は他の質問よりも低い評価結果であった。
これは、オムニバス授業であり、各教員により講義実施方法が異なることが影響していると考えた。

(3) 次年度に向けての取り組み

以上の結果を踏まえ、学生の混乱を招かないよう、授業スケジュールについて予めしっかりと示していきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		人間発達学	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

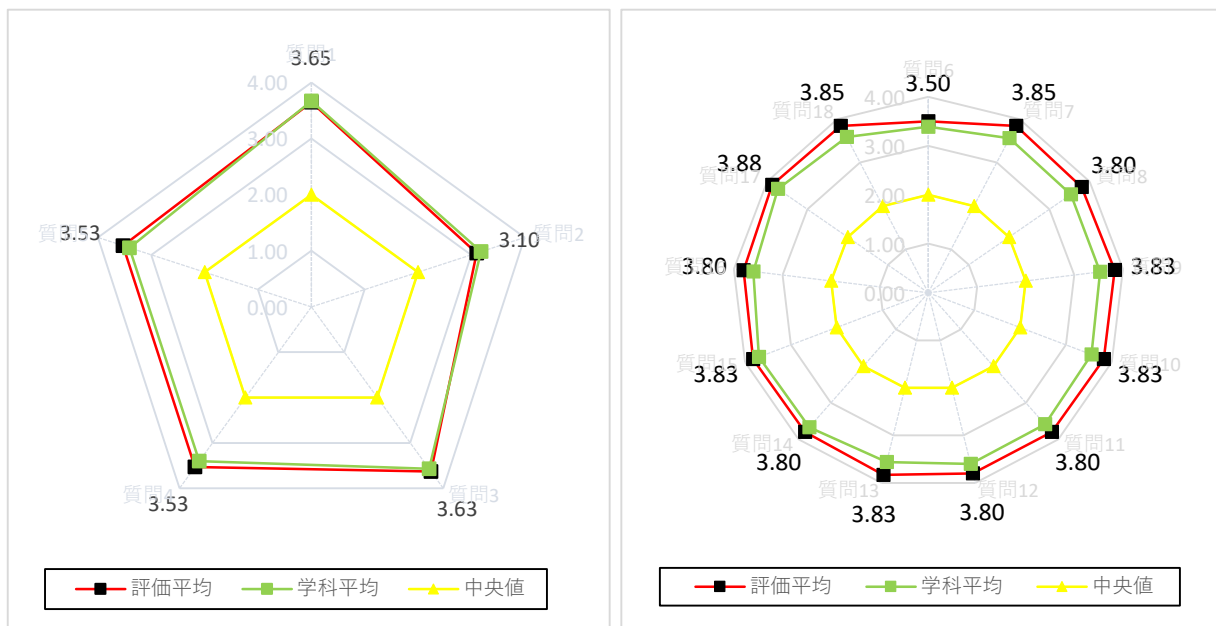
本年度も一部オンライン授業と対面を併用しての授業となった。teamsを利用しての講義では昨年の経験をもとに資料を配布し、事前にノートを作成（予習）する形の授業構成とした。teamsを使用することで事前資料の配布が分かりやすくなり、学生からも問い合わせは少なかった。一方で印刷資料が欲しいという意見も多く、印刷物については登校日にまとめて対応した。概ね順調に講義が進行したが、一部通信環境に問題がある学生がおり個別対応を行った。対面授業が可能となったからはオンライン授業の補足にも努め、シラバスを必要に応じて変更した。試験結果を見る限り、学生の興味・理解度は例年通りであった。次年度も入学してすぐの専門的な科目であり、PTへの職業意識を高めるような授業を展開できるよう映像なども取り入れ授業を進めていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

1年生最初の必修科目であり、理学療法に興味を持つような導入教材を検討する。オンライン授業になった場合、課題（ノート）を印刷することが学生には負担になっていたため、次年度も登校日に資料を一括で配布し持ち帰ってもらえるよう準備を進める。ノートや授業後の感想提出などを随時、確認しながら、学修に不安がありそうな学生については早めに個別対応し、学修意欲の低下を防ぎたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内科学 I	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

R3年度前期における学生のアンケート回答率は60% (40/67) であった。すべての質問において学科平均または平均を若干上回る結果であった。私の講義方法として、ZoomとTeams を併用したオンデマンド型の遠隔授業を行っている。具体的には、
 ①初回に前期・後期分のオリジナル教材 (学習ノート) を一括配布して授業方法を説明、
 ②毎回の授業時は、講師が授業の音声動画を事前録画 (Zoom) して学生へ配信 (Teams) 、
 ③学生は各自で動画を見ながら学習ノートに記載、
 ④出欠管理として課題提出 (練習問題) を行い、自由記載にて質問・感想を収集、
 ⑤次回の講義で練習問題の解説と質疑応答を全体にフィードバックした。
 ⑥最終回は定期試験 (対面) の後、全体の解説・質疑応答を行った。
 ⑦録画は一定期間閲覧可能として復習に活用してもらった。
 学生の受講態度は概ね誠実かつ熱心であり、過去の対面授業時代よりも質問はむしろ増加しており、主体性・自律性が増した印象を受ける。
 昨年の反省から学習ノートの巻末に練習問題を追加し、さらに使いやすくなるよう改良したことが役に立った。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の自由記載から抜粋

?因科学では、病名やそれが何についてかなど詳しく説明してくれていたのが、覚えていきたいです。

オンデマンドの授業では、毎回丁寧な説明をしていただきありがとうございました。

?学習ノートのプリントされている写真や絵、図の画質を良くした方がもっと学生にとって分かりやすくなると思います。

次年度に向けての取り組み

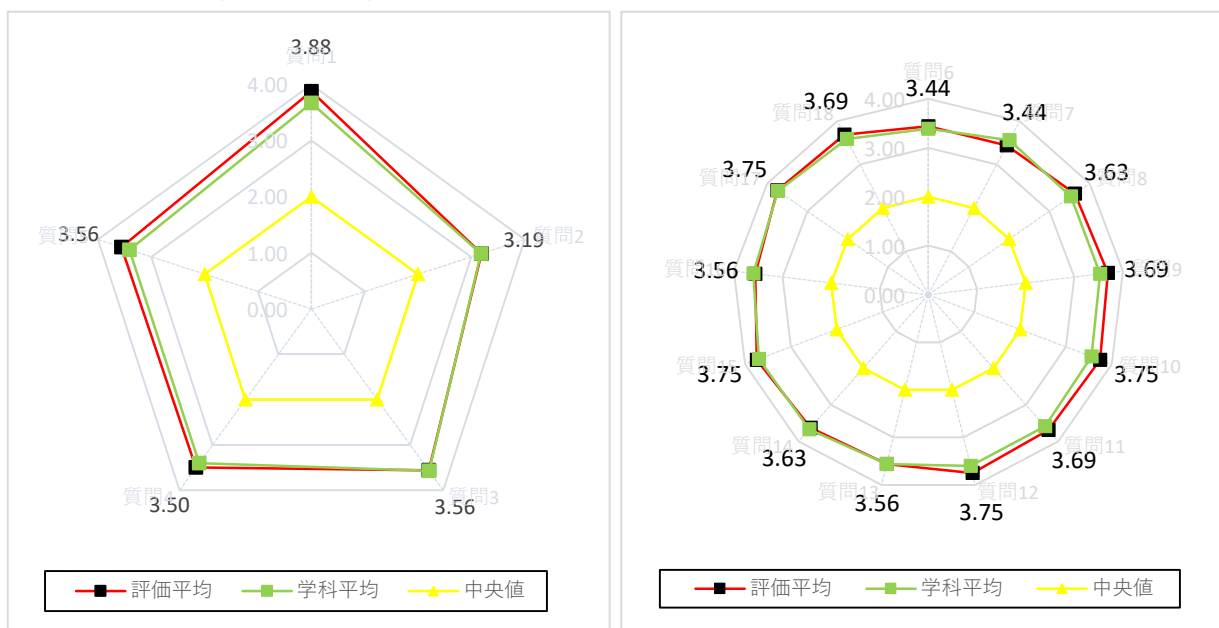
① 学生の自由記載でも指摘があったように、印刷の問題で画質が悪い箇所があったため、来年度は改善したい。

② 丁寧な説明を引き続き心がけていきたい。

□

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内科学Ⅱ	68名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

R3年度後期における学生のアンケート回答率が24% (16/67) と低いため、回答した学生によるバイアスが大きい可能性がある。

回答率が低かった理由は実習を控えた学生に回答の余裕がなかった可能性がある。すべての質問において学科平均程度の結果であった。

講義方法は前期と同様にZoomとTeams を併用したオンデマンド型の遠隔授業を実施した。

- ①前期に配布したオリジナル教材（学習ノート）を引き続き使用、
- ②毎回の授業時は、講師が授業の音声動画を事前録画（Zoom）して学生へ配信（Teams）、
- ③学生は各自で動画を見ながら学習ノートに記載、
- ④出欠管理として課題提出（練習問題）を行い、自由記載にて質問・感想を収集、
- ⑤次回の講義で練習問題の解説と質疑応答を全体にフィードバックした。
- ⑥最終回は定期試験（対面）、全体の解説・質疑応答を行った。
- ⑦録画は一定期間閲覧可能として復習に活用してもらった。

学生の受講態度は概ね誠実かつ熱心であり、過去の対面授業時代よりも主体性・自律性が増した印象を受ける。

試験結果は対面授業時代と変わらず、遠隔授業の習熟状況にマイナス要因はなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

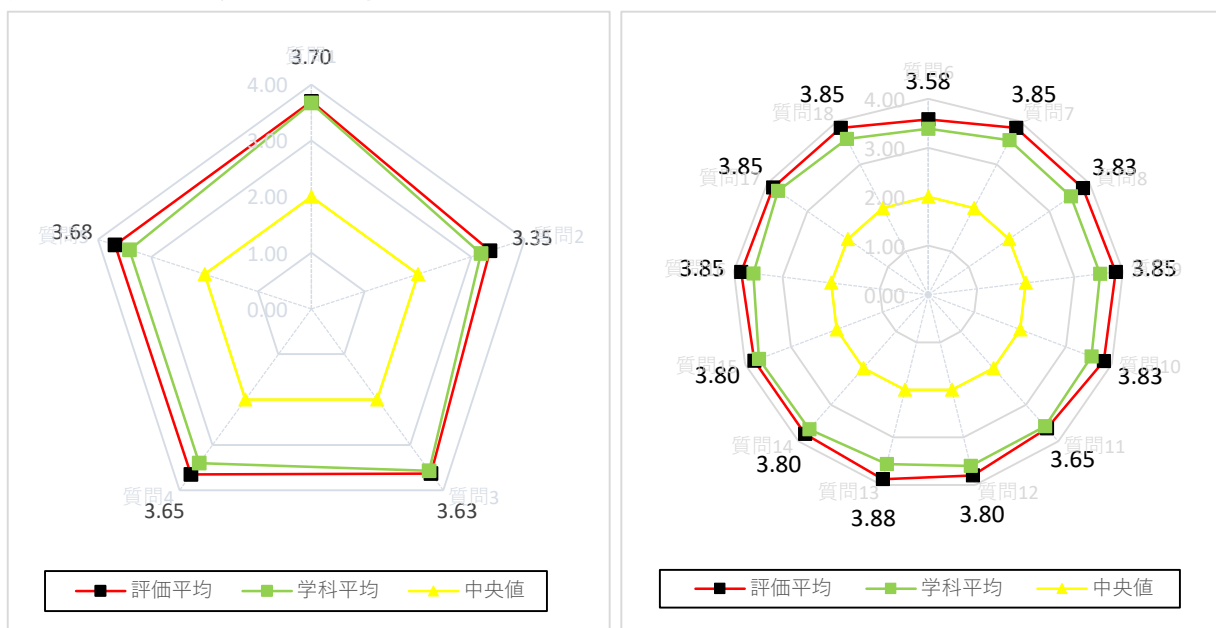
学生からの自由記載は特になかった。

学習ノートの一部の画像に画質が悪い箇所があったため、来年度は改善したい。

丁寧な説明を引き続き心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		整形外科科学 I	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

R3年度前期における学生のアンケート回答率は60% (40/67) であった。すべての質問において学科平均または平均を若干上回る結果であった。私の講義方法として、ZoomとTeams を併用したオンデマンド型の遠隔授業を行っている。具体的には、

- ①初回に前期・後期分のオリジナル教材 (学習ノート) を一括配布して授業方法を説明、
- ②毎回の授業時は、講師が授業の音声動画を事前録画 (Zoom) して学生へ配信 (Teams)、
- ③学生は各自で動画を見ながら学習ノートに記載、
- ④出欠管理として課題提出 (練習問題) を行い、自由記載にて質問・感想を収集、
- ⑤次回の講義で練習問題の解説と質疑応答を全体にフィードバックした。
- ⑥最終回は定期試験 (対面) の後、全体の解説・質疑応答を行った。
- ⑦録画は一定期間閲覧可能として復習に活用してもらった。

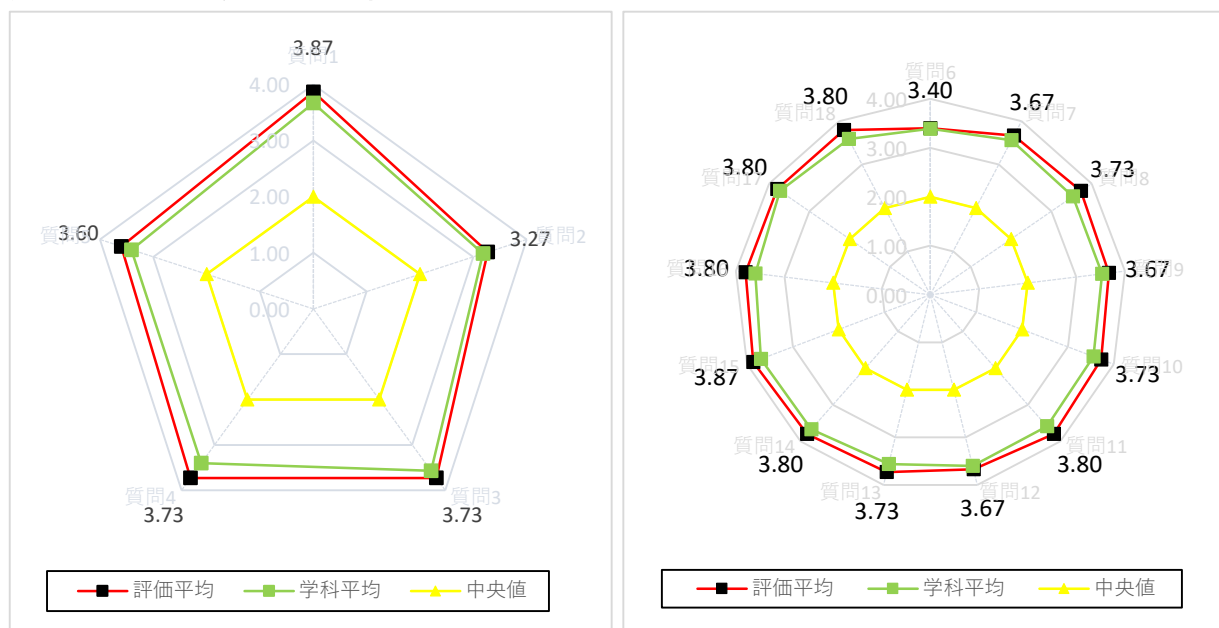
学生の受講態度は概ね誠実かつ熱心であり、過去の対面授業時代よりも質問はむしろ増加しており、主体性・自律性が増した印象を受ける。昨年の反省から学習ノートの巻末に練習問題を追加し、さらに使いやすくなるよう改良したことが役に立った。

(3) 次年度に向けての取り組み

学習ノートの図において印刷の問題で画質が悪い箇所があったため、来年度は改善したい。丁寧な説明を引き続き心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		整形外科科学Ⅱ	70名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

R3年度後期生のアンケート回答率が21% (15/70) と低いため、回答した学生によるバイアスが大い可能性がある。

回答率が低かった理由は実習を控えた学生に回答の余裕がなかった可能性がある。

すべての質問において学科平均または平均を若干上回る結果であった。

講義方法は前期と同様にZoomとTeamsを併用したオンデマンド型の遠隔授業を実施した。

- ①前期に配布したオリジナル教材（学習ノート）を引き続き使用、
- ②毎回の授業時は、講師が授業の音声動画を事前録画（Zoom）して学生へ配信（Teams）、
- ③学生は各自で動画を見ながら学習ノートに記載、
- ④出欠管理として課題提出（練習問題）を行い、自由記載にて質問・感想を収集、
- ⑤次回の講義で練習問題の解説と質疑応答を全体にフィードバックした。
- ⑥最終回は定期試験（対面）、全体の解説・質疑応答を行った。
- ⑦録画は一定期間閲覧可能として復習に活用してもらった。

学生の受講態度は概ね誠実かつ熱心であり、過去の対面授業時代よりも主体性・自律性が増した印象を受ける。

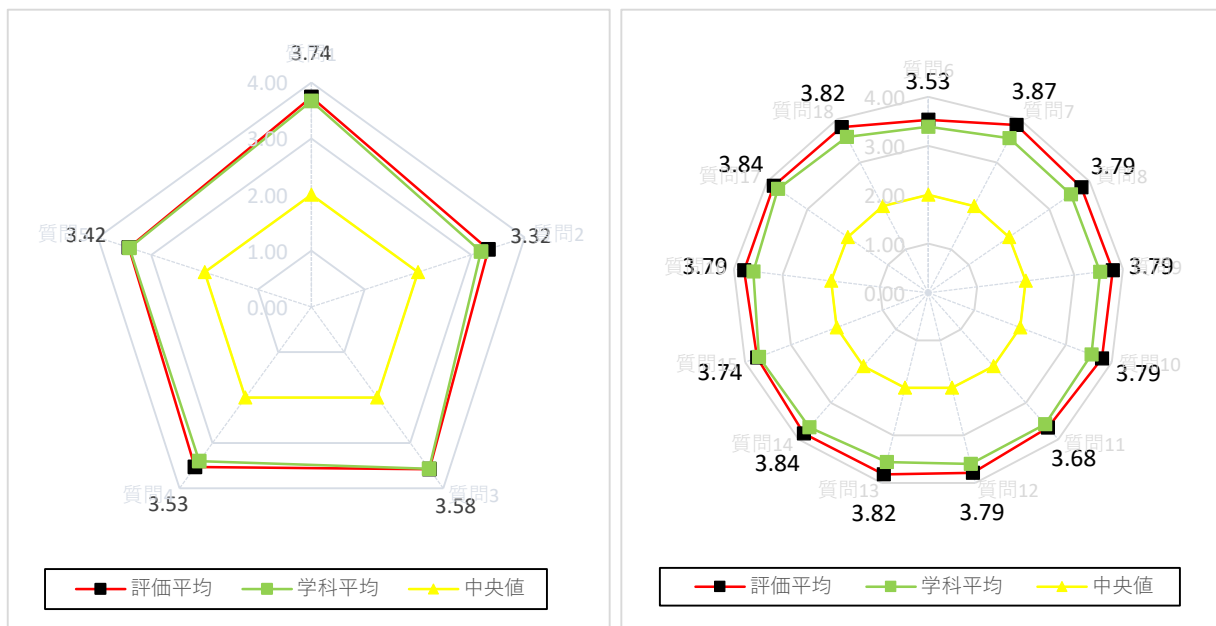
試験結果は対面授業時代と変わらず、遠隔授業の習熟状況にマイナス要因はなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学習ノートの図の一部に印刷の問題で画質が悪い箇所があったため、来年度は改善したい。丁寧な説明を引き続き心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経内科学 I	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

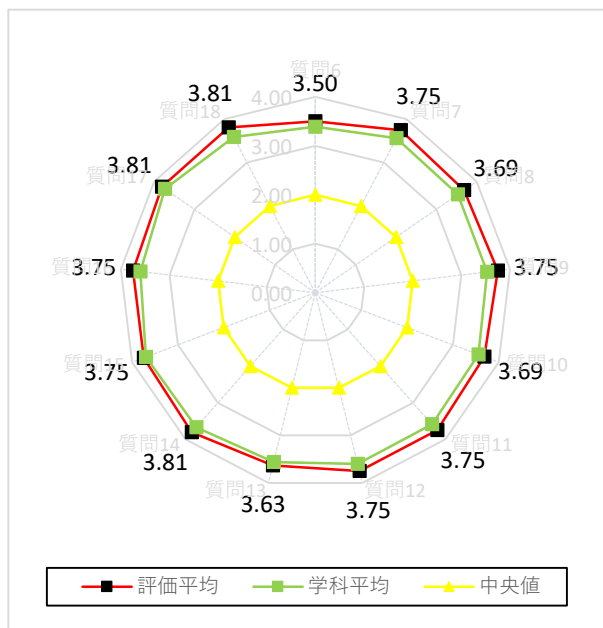
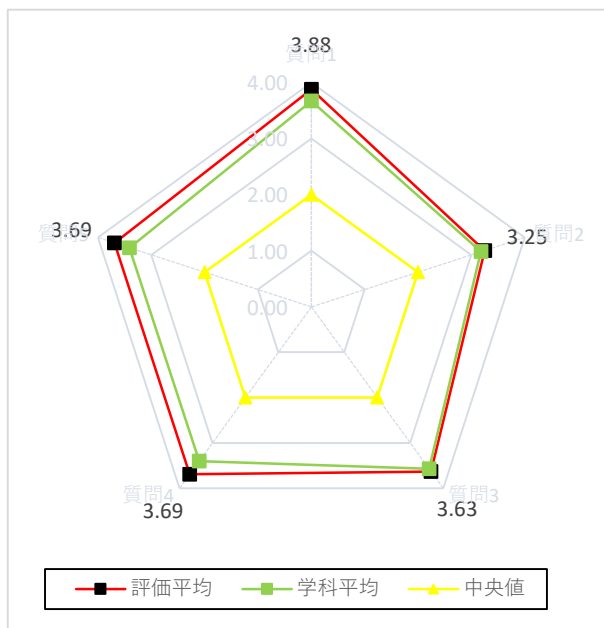
R3年度前期における学生のアンケート回答率は60% (38/70) であった。すべての質問において学科平均または平均を若干上回る結果であった。私の講義方法として、ZoomとTeams を併用したオンデマンド型の遠隔授業を行っている。具体的には、
 ①初回に前期・後期分のオリジナル教材 (学習ノート) を一括配布して授業方法を説明、
 ②毎回の授業時は、講師が授業の音声動画を事前録画 (Zoom) して学生へ配信 (Teams)、
 ③学生は各自で動画を見ながら学習ノートに記載、
 ④出欠管理として課題提出 (練習問題) を行い、自由記載にて質問・感想を収集、
 ⑤次回の講義で練習問題の解説と質疑応答を全体にフィードバックした。
 ⑥最終回は定期試験 (対面) の後、全体の解説・質疑応答を行った。
 ⑦録画は一定期間閲覧可能として復習に活用してもらった。
 学生の受講態度は概ね誠実かつ熱心であり、過去の対面授業時代よりも質問はむしろ増加しており、主体性・自律性が増した印象を受ける。
 昨年の反省から学習ノートの巻末に練習問題を追加し、さらに使いやすくなるよう改良したことが役に立った。

(3) 次年度に向けての取り組み

自由記載から抜粋
 ?勉強の仕方やどこが大事であるかということを知ることができました。
 ?白くさんの病名や症状などのことがよくわかりました
 次年度の取り組み
 学習ノートの図の一部に印刷の問題で画質が悪い箇所があったため、来年度は改善したい。
 丁寧な説明を引き続き心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経内科学Ⅱ	69名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

R3年度後期における学生のアンケート回答率が23%（16/69）と低いため、回答した学生によるバイアスが大きい可能性がある。

回答率が低かった理由は実習を控えた学生に回答の余裕がなかった可能性がある。

すべての質問において学科平均程度の結果であった。

講義方法は前期と同様にZoomとTeamsを併用したオンデマンド型の遠隔授業を実施した。

- ①前期に配布したオリジナル教材（学習ノート）を引き続き使用、
- ②毎回の授業時は、講師が授業の音声動画を事前録画（Zoom）して学生へ配信（Teams）、
- ③学生は各自で動画を見ながら学習ノートに記載、
- ④出欠管理として課題提出（練習問題）を行い、自由記載にて質問・感想を収集、
- ⑤次回の講義で練習問題の解説と質疑応答を全体にフィードバックした。
- ⑥最終回は定期試験（対面）、全体の解説・質疑応答を行った。
- ⑦録画は一定期間閲覧可能として復習に活用してもらった。

学生の受講態度は概ね誠実かつ熱心であり、過去の対面授業時代よりも主体性・自律性が増した印象を受ける。

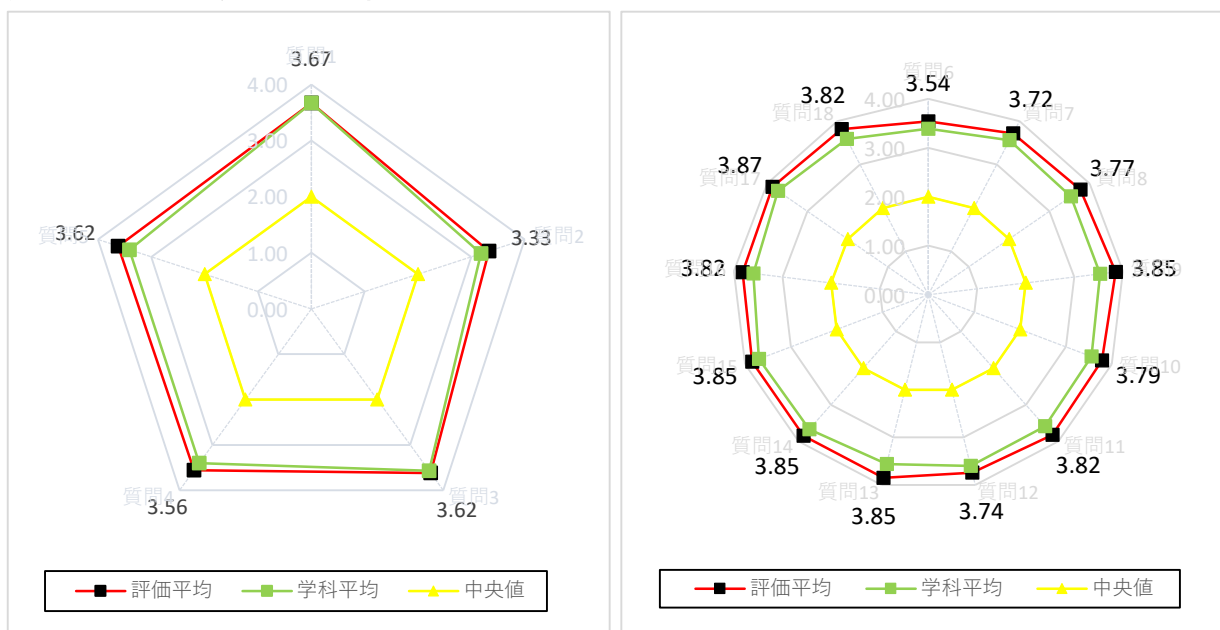
試験結果は対面授業時代と変わらず、遠隔授業の習熟状況にマイナス要因はなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学習ノートの図の一部に印刷の問題で画質が悪い箇所があったため、来年度は改善したい。丁寧な説明を引き続き心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		精神医学 I	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

2名の教員によるオムニバス授業である。各教員がそれぞれ工夫しながら遠隔授業と対面授業を実施した。全ての項目において、ほぼ学科平均と同じくらいの結果であったが、シラバスについての説明や声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切についての評価は低かった。

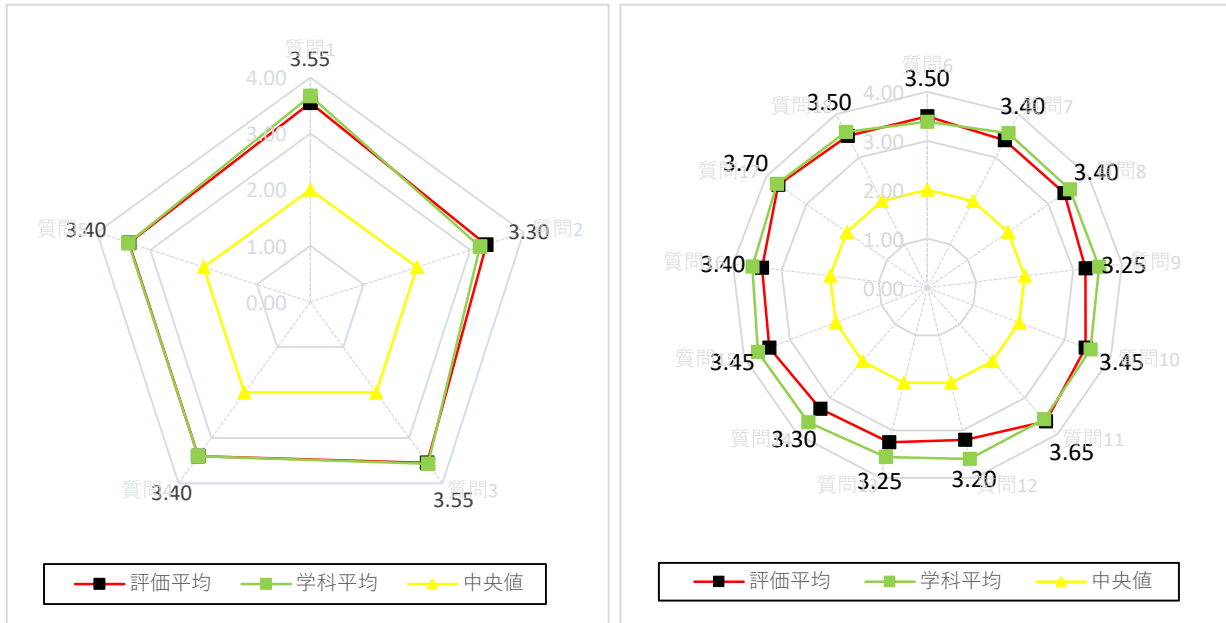
(3) 次年度に向けての取り組み

対面授業中心となるため、学生に理解を促す内容となるよう授業内容を振り返りながら進めていきたい。今後学生に伝わりやすいようシラバス授業内容の説明が必要と考えた。

声の大きさや明瞭さ、話す速さは学生の方の意見も取り入れて適切となるよう行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学研究法	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

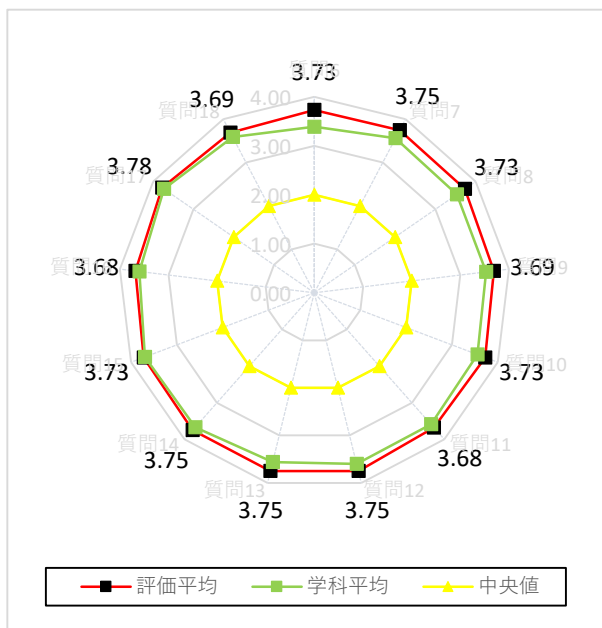
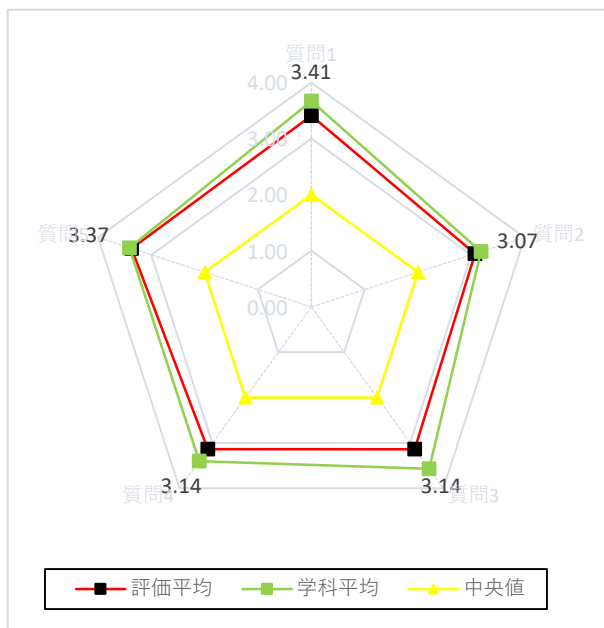
例年質問6の評価が低かったが、毎回授業の内容を確認しながら進めていったので今年度の結果は高かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、データを用いながら実践的な統計解析を身に付けさせる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		リハビリテーション医療	72名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

- ・ 回答率81.9% (59名/72名) は評価できる。
- ・ 総合評価 (質問18) は, 「満足・概ね満足」が94.9%, 「やや不満・不満」は5.1%である。
- ・ 自由記述にも概ね良好なコメントが寄せられている。
- ・ 質問は18項目であるが質問19?25に5名の回答がある。

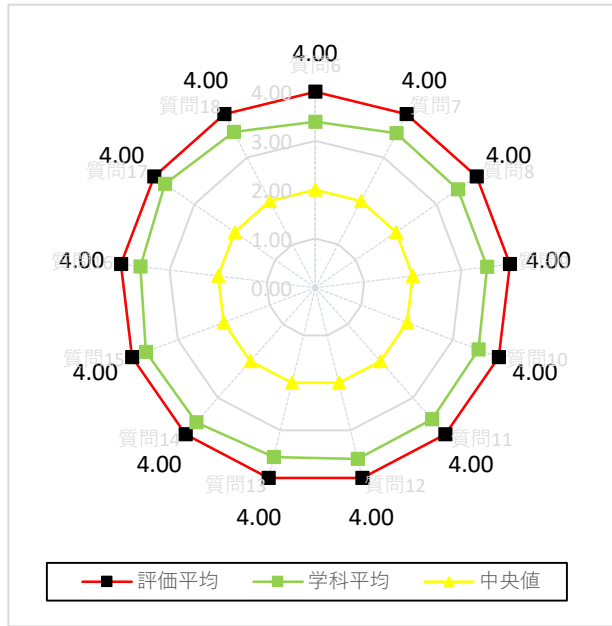
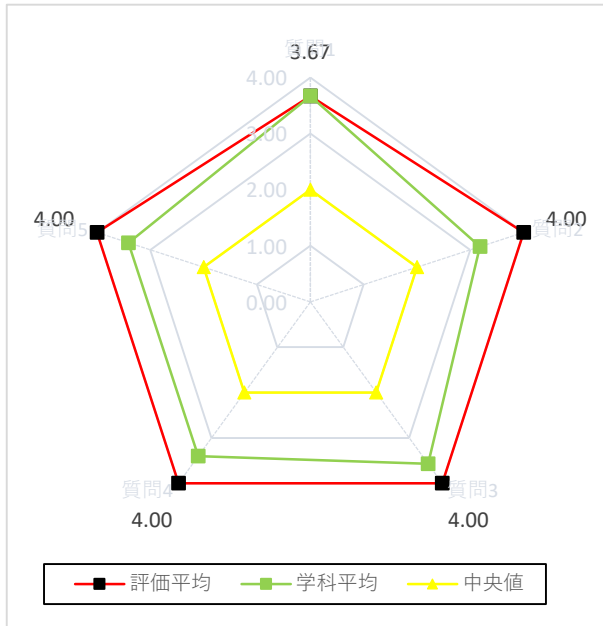
(3) 次年度に向けての取り組み

自由記述から,

- ・ 講義後に次回講義までの課題を提示すること, 講義開始前に前回の課題に関する解説を行うことで予習・復習への動機づけになっている事が分かる。
 - ・ 画像や動画の活用が学生の興味を刺激して理解を深めることが確認された。
- 引き続き, 毎回の講義で課題の提示及び解説を行い, 関連画像・動画のブラッシュアップを行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学研究法演習	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

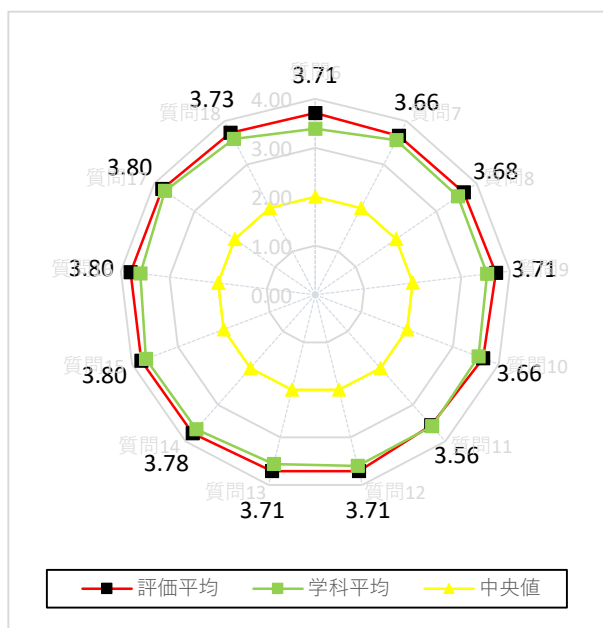
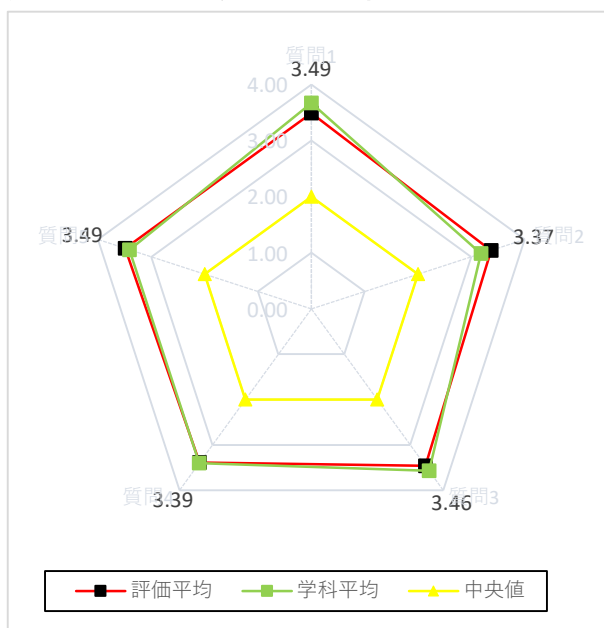
個人の授業よりも本授業は全項目で学生の結果が良い。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も取り組みを早くして卒業論文を仕上げる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		基礎理学療法学	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

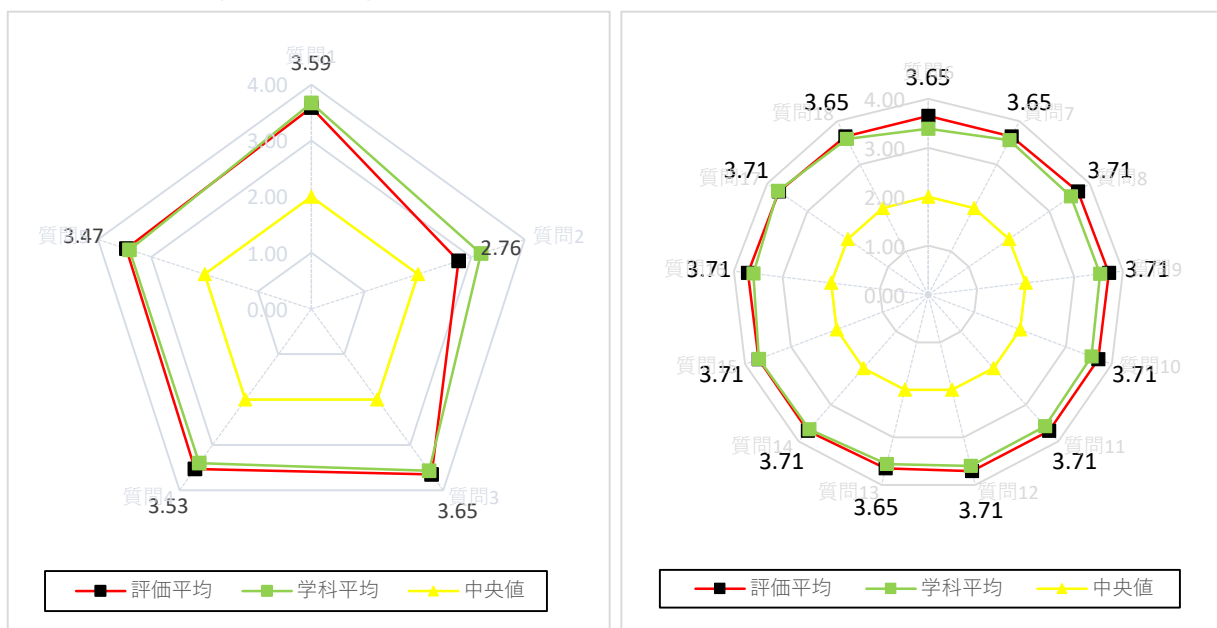
- ・ 回答率82.0% (41名/50名) は評価できる。
- ・ 総合評価 (質問18) は, 「満足・やや満足」が97.6% (40名/41名), 「やや不満・不満」が2.4% (1名)であった。
- ・ 質問は18項目であるが質問19?25に3名の学生が回答している。
- ・ 質問11 (教科書・資料等) でやや不満が2名, 質問13 (講義の進捗) でやや不満が2名, いずれに質問にも「不満」と回答した学生が1名認められた。
- ・ 自由記述から, ミニツッパパーの活用は双方向の意思疎通に役立ち, 画像・動画の活用で理解の進度が深まることが確認された。
- ・ 自由記述から, 講義中の資料の活用方法に戸惑いがあったと回答する学生が1名認められた。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 引き続きミニツッパパーを活用して学生の潜在的な意見を引き出す。
- ・ 穴埋めや書き込み時間の設定など, 配付資料の活用方法の指導・助言を随時行う。
- ・ 画像・動画のブラッシュアップを図り学生の向学心を刺激する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学 I	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

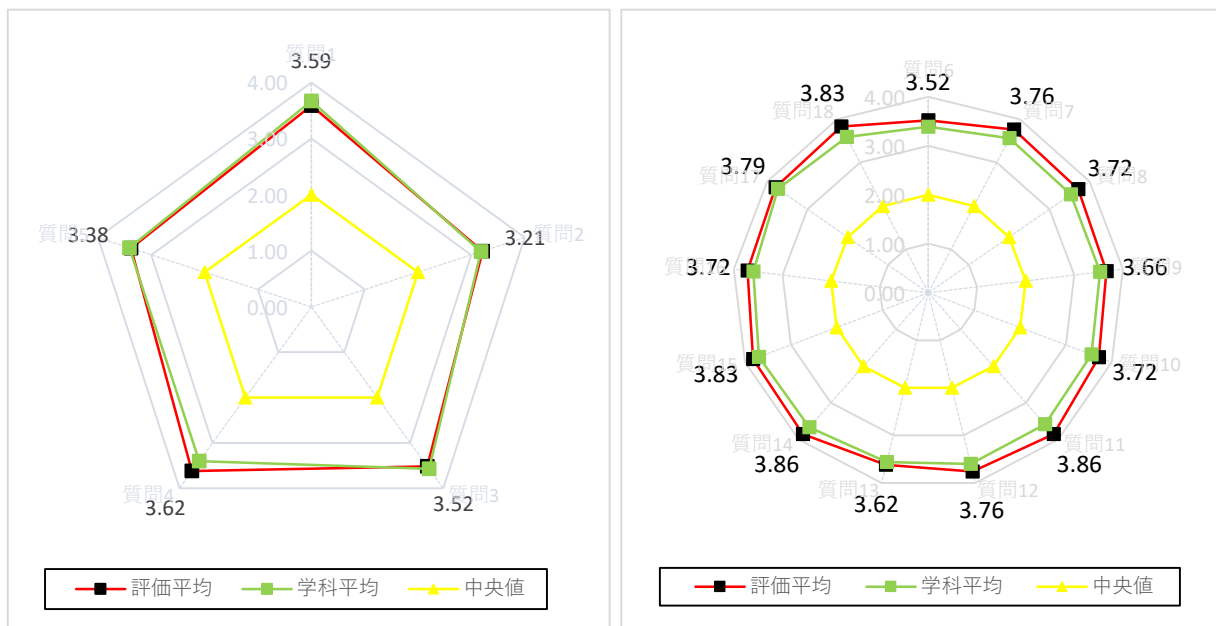
2021（令和3）年度、1年生後期の理学療法評価学 I の授業評価は、 $3.44 \pm 0.64 / 4$ 点であった。評価が低かったのは「シラバスを活用しましたか？」で $2.76 \pm 0.90 / 4$ 点であった。評価が高かったのは「興味関心が持てる工夫をされていたか」「わかりやすくする工夫がされていたか」「視聴覚機器や番所の使い方」「配布資料は役に立ったか」「声の大きさ・明瞭さ・話す速さ」「質問に誠実に対応したか」「公平に学生に対応したか」「」「双方向のやり取りをしながら授業をしたか」「熱心に授業に取り組んでいたか」の質問項目であり、 $3.71 \pm 0.59 / 4$ 点であった。履修者50名のうち、授業評価の回答人数は17名（34%）であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

コロナの影響を受けることが予想され、対面でしか実施できない講義内容と遠隔でも実施可能な講義内容を考慮しながら講義を進行した。このことから、予定通りの講義を進行することができず、シラバスを活用した講義を展開できなかった。また、授業評価の回答者が少ないことから、授業評価の結果が正確ではない可能性がある。シラバスを活用した講義を展開すること、受講した学生のすべてに授業を評価してもらうことが次年度の課題である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学Ⅱ	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

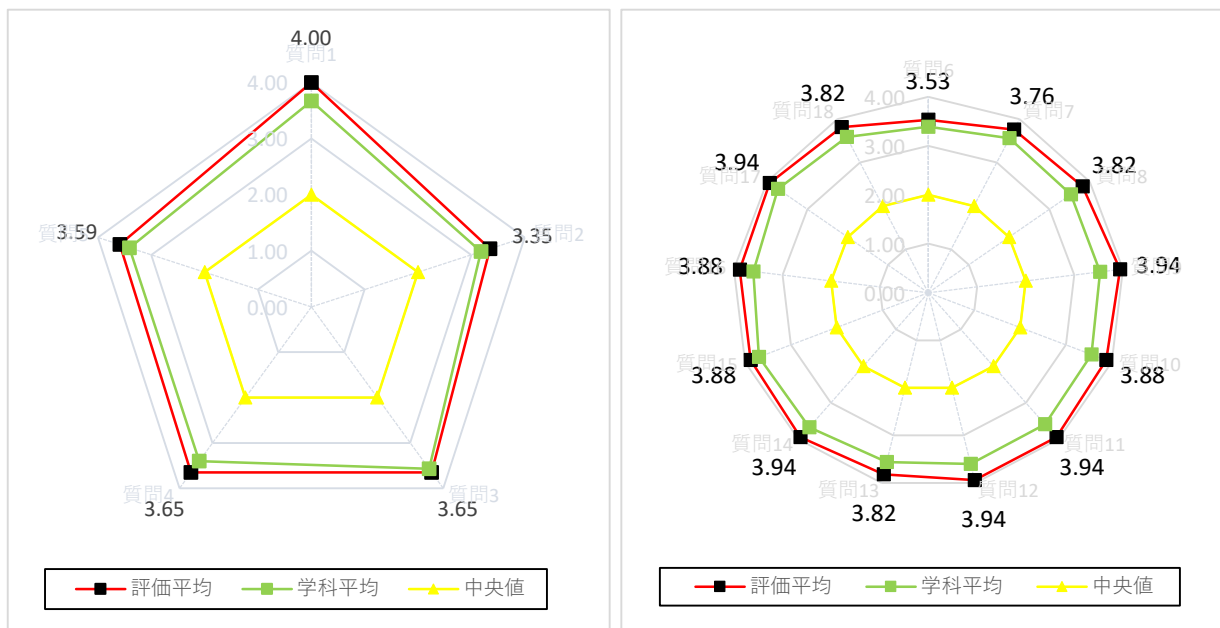
一部オンラインでの講義となった。例年、実技を交えた講義を行っていたため、シラバスを変更しながら対応した。シラバスの変更については講義の中で口頭で説明することが多かったが、シラバス変更について情報が行き届いていなかった点は反省したい。対面での講義が始まってからは講義内容が過密になったが、オンラインでの講義中も学生がよく勉強していたため、例年通りの講義を終了することが出来た。中間試験については筆記のみで実技試験を実施することが出来た。定期試験では実技試験を感染対策を十分に行ったうえで実施した。実技試験を行うことで学生の学修意欲は格段に向上した。

(3) 次年度に向けての取り組み

オンライン授業になる可能性を見越し、教材の準備や教科書選定を行う。また実技を交えた講義は感染予防に十分留意しながら進めたい。また40名以上のクラスの場合は実技講義に必要な機器について準備を行う。社会状況によりシラバス変更する場合は、紙面上でシラバスを再度示し学生への周知を図るよう心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法評価学概論	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

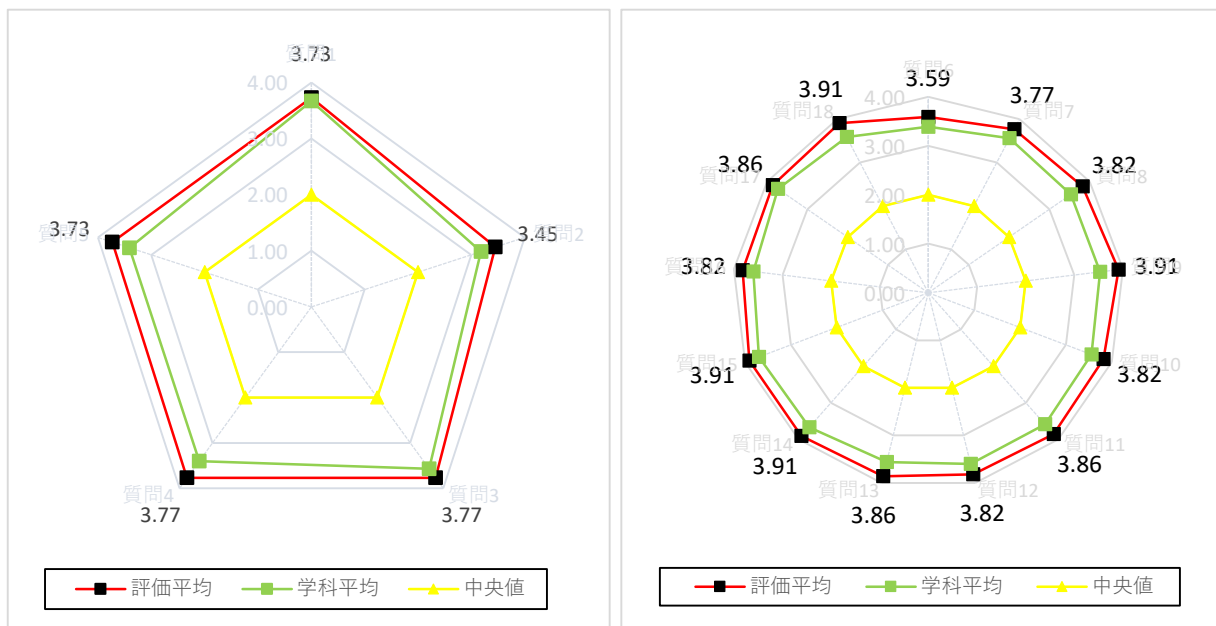
学科平均と比較し、ほとんどの項目で平均値と同等もしくは平均値を上回る点数であった。しかし、質問6のみ、その他質問項目と比較しても点数が低く、学科平均よりも若干低い結果となっていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

分析結果より、次年度においては初回の授業時にはシラバスを用い授業全体の見通しを説明するなど、オリエンテーションをしっかりと行いたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学Ⅲ	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

2021（令和3）年度、2年前期「理学療法評価学Ⅲ」の総合評価は、 $3.91 \pm 0.29 / 4$ 点であった。評価が低かった項目は「シラバスを活用したか」 $3.45 \pm 0.86 / 4$ 点であった。評価が高かった項目は「わかりやすく工夫されていたか」「学生の質問に誠実に対応したか」「公平に学生に対応したか」が $3.91 \pm 0.29 / 4$ 点であった。

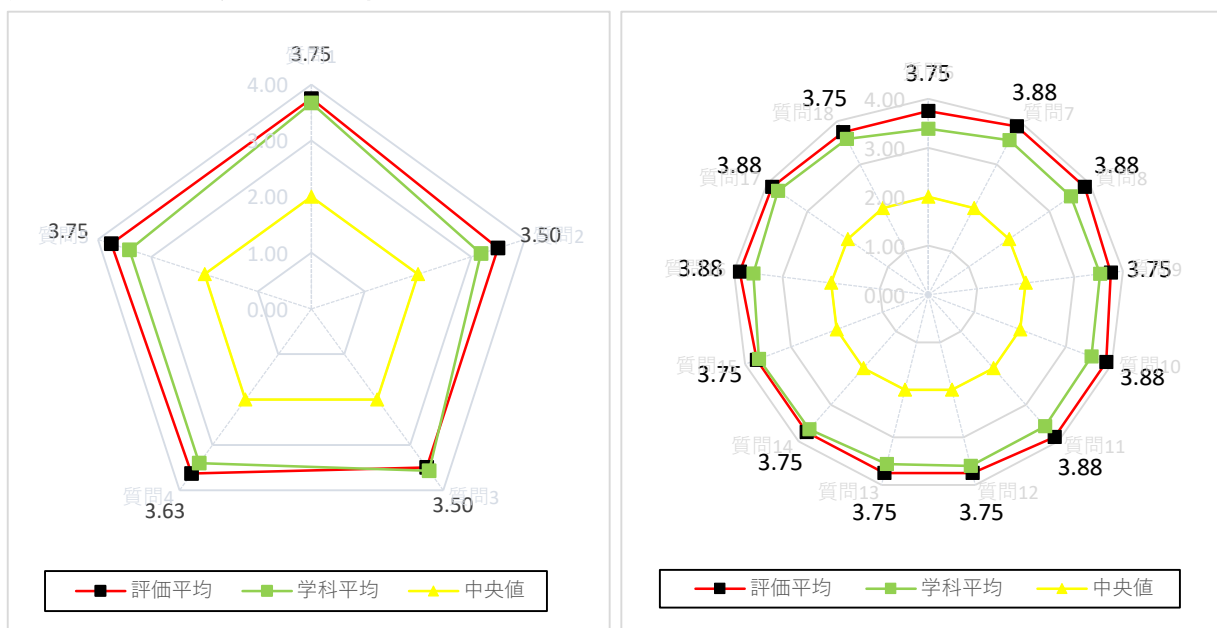
学生による自由記入によるコメントに「試験方法など臨床で活用するときに来ると思うのでテストのための勉強でなく、これから先のための勉強をしていこうと思います」「太田尾先生の実技（腱反射、姿勢反射）での的確で正確な検査の仕方は、まさに匠の技でした。私は、まだうまく反射を出すことができないので太田尾先生のアドバイスを基にたくさんの人で練習を行いたいと思います」「実際に行うことで、理解や知識が増えていきました。授業するのが楽しかったです」との記入があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

コロナの影響を受けて、いつ対面授業ができなくなるか予測できない状況であった。対面でしか実施できない講義を早期の回に実施したことから、シラバス通りに講義を展開できなかった。学生と相談しながら講義を展開すること、科目全体の概要が見えるように毎回講義を展開していく必要がある。次年度の課題である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学実習	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

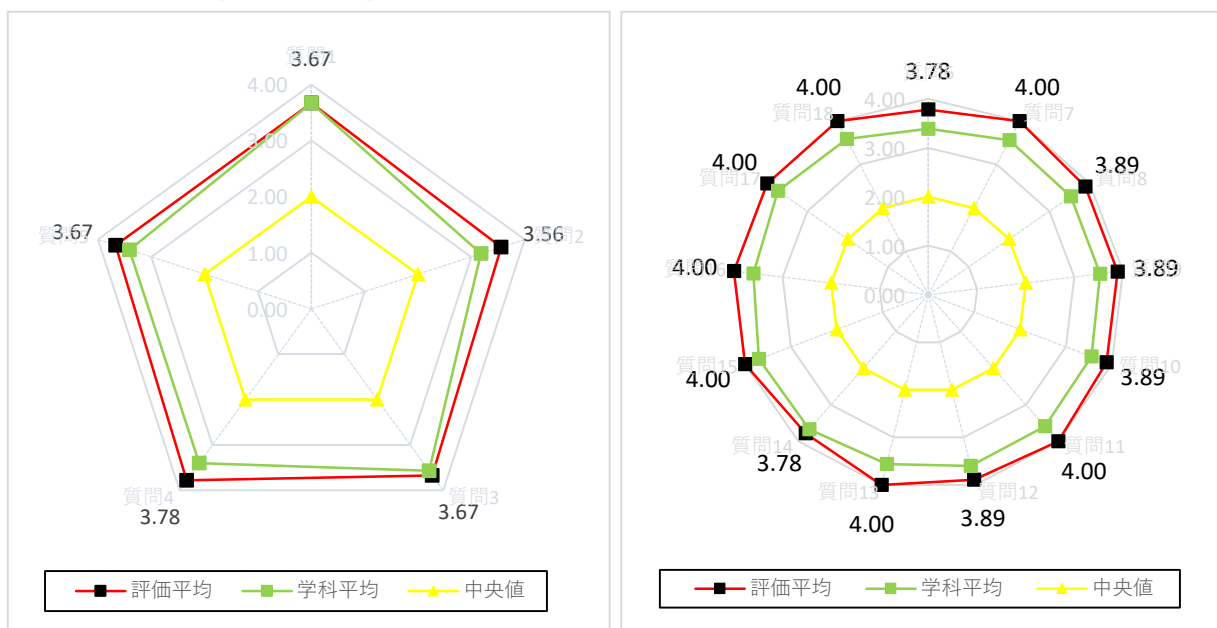
2021（令和3）年度、2年後期「理学療法評価学実習」の総合評価は $3.75 \pm 0.46 / 4$ 点であった。評価が低かった項目は「シラバスを活用したか？」が $3.50 \pm 0.76 / 4$ 点であった。評価が高かった項目は「到達目標を明確にして授業を展開していたか」「興味関心を持てる工夫がされていたか」「視聴覚機器や板書の使い方」「教科書・配布資料は役に立ったか」「双方向のやり取りをしながら授業を行っていたか」が $3.88 \pm 0.35 / 4$ 点であった。受講者が45名であったのに対し、授業評価に回答した学生は8名（17%）であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスを活用した講義を展開すること、授業評価の回答率を上げることが必要である。次年度は、科目全体の概要を示しながら毎回講義を展開すること、授業評価に回答するように講義中に促したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		物理療法学	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

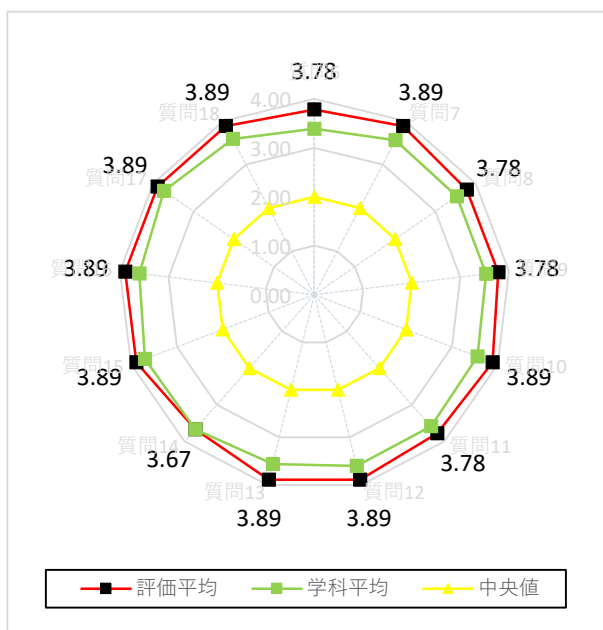
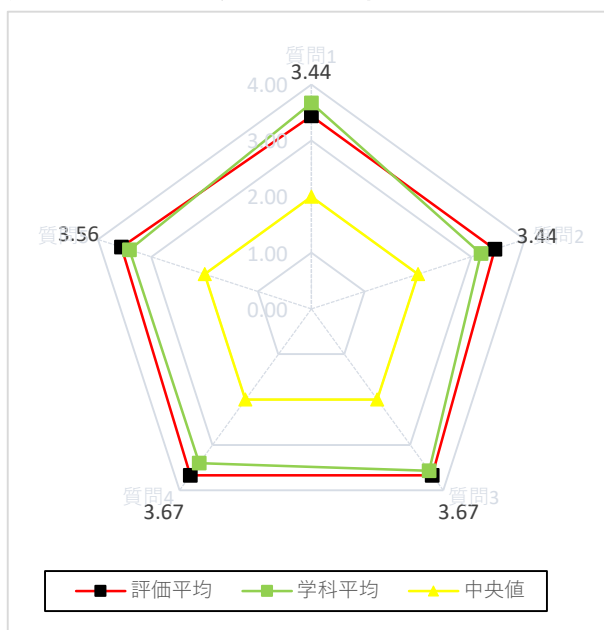
全ての項目について高い評価をいただいた。常に学生が理解するにはどのように説明をしたらいいか考えて取り組んだ。学生の学習意欲に結びつくように更に工夫をしていきたいと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の学習意欲を高めるために、より実践的な内容や理解しやすい資料を作成するなど講義の展開を改善していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		物理療法学演習	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

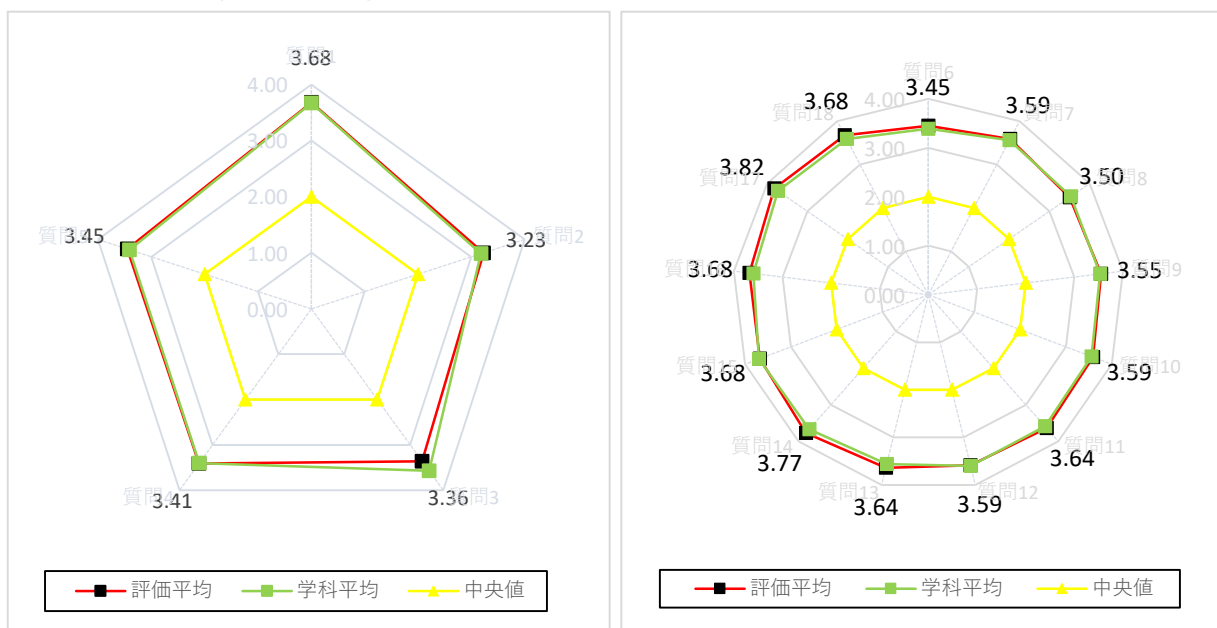
全体を通して高い評価をいただいた。学生参加型の講義を展開していくのに、人数に対する使用機器が少ないため難渋したところもあったが、学生さんのご協力のおかげで無事に終わらせることができた。質問に対して誠実に対応したかの質問についてやや低くなっているが、時間と講義量の調整で、学生さんへの対応が不十分なことがあったかもしれない。この件について反省し、次年度以降は学生の質問に対して切実に対応していきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の学習意欲を高める講義の工夫、学生への質問に誠実に対応できるように準備をしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動療法学	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

2021「運動療法学」授業評価の回答率は50% (22名/44名) であった。

質問18【総合評価】良い：77.3% (17名)，どちらかと言えば良い：18.2% (4名)，悪い：4.5% (1名) であった。

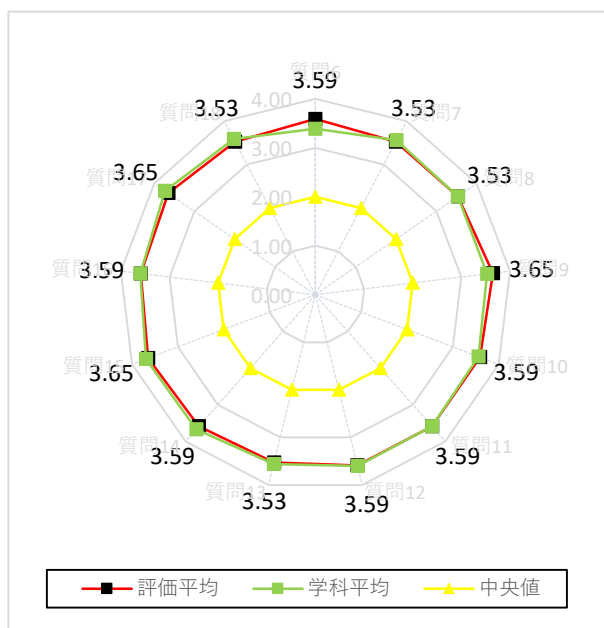
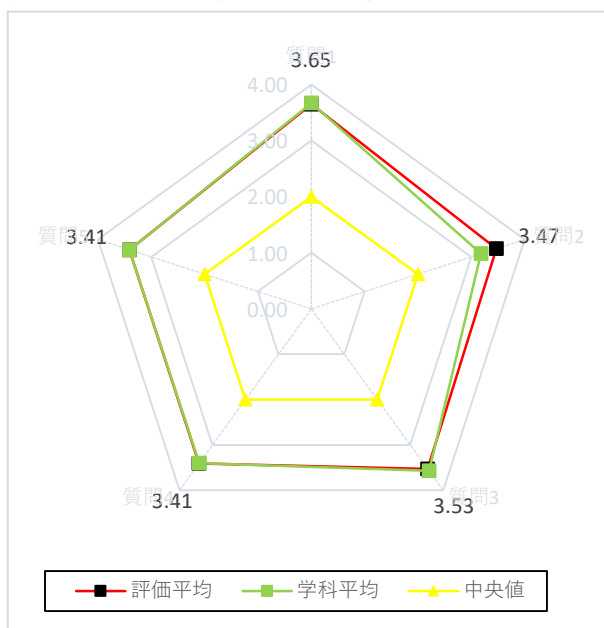
自由記述に書き込みがないため、具体的なことは分からないが、現状で学生の満足は得られていると解しブラッシュアップを図りたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向け、講義内容、配付資料の点検を行い、ブラッシュアップを図る。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動器障害理学療法学	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

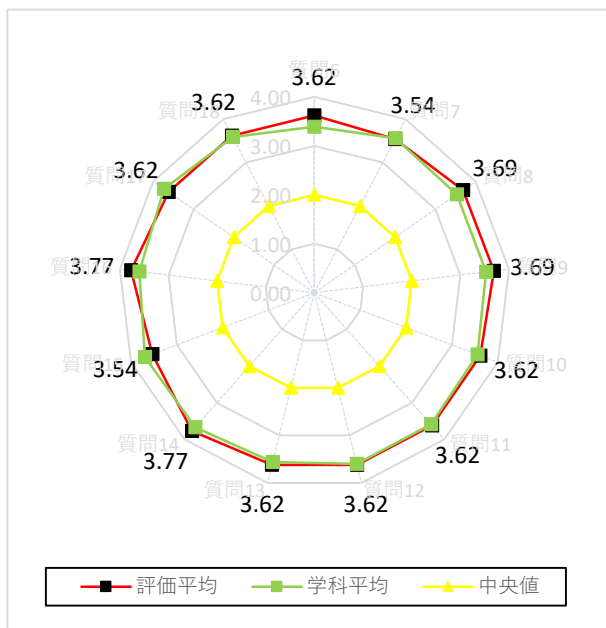
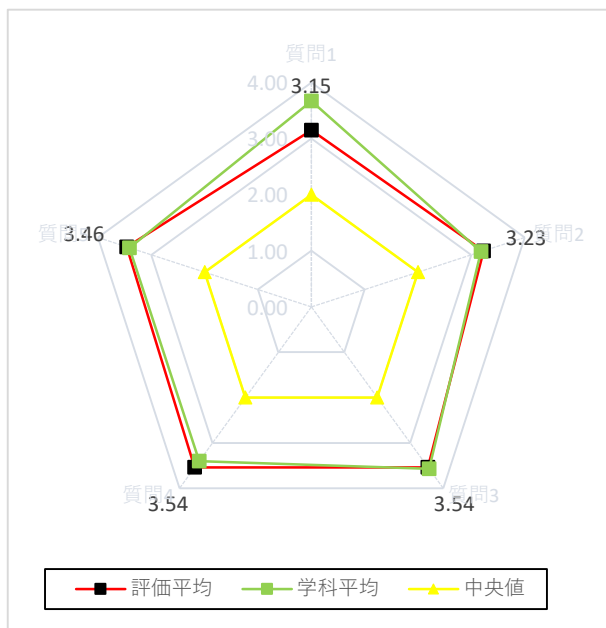
全体として3.5前後の評価であった。学生の学習意欲を高め、理解できるように講義の工夫が必要だと感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は学生の反応をみながら、科目に興味を持ち、学習意欲につながるように講義の展開方法を工夫していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動療法学実習	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

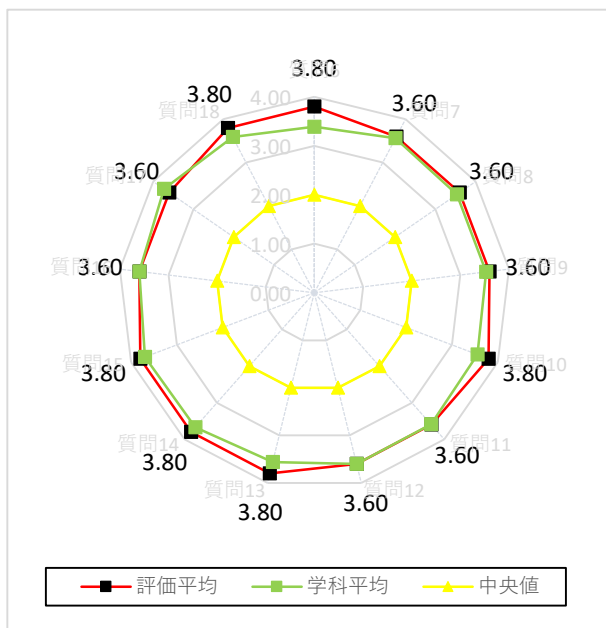
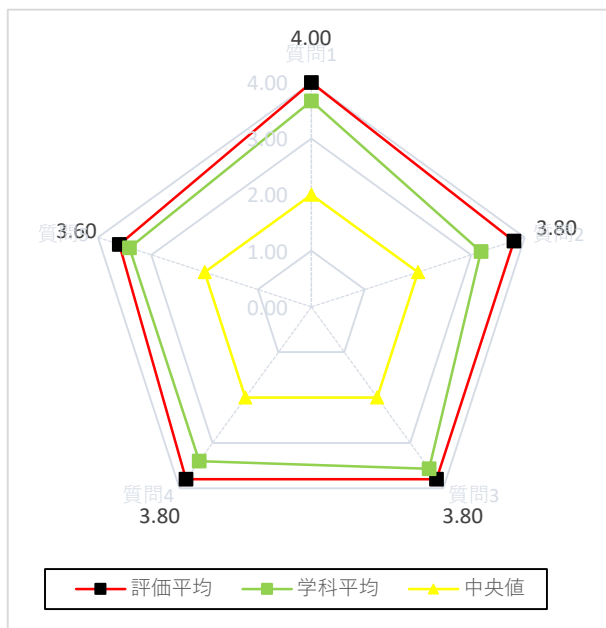
- ・ 回答率29.5% (13名/44名) は、あまりにも低い。
- ・ 総合評価 (質問18) は、「満足・やや満足」が92.3% (12名/13名)、「やや不満・不満」が7.7% (1名/13名)であった。
- ・ 質問6 (授業計画の説明)、質問7 (到達目標の設定)、質問11 (教科書・配付資料)、質問13 (講義の進度)、質問15 (公平な学生対応)、質問17 (教員の熱意) に「不満」と回答した学生が1名認められた。
- ・ 自由記述への回答はなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 回答率の向上を図る。
- ・ 「運動療法学 (前期)」終了時点で班分けを行い、本講義の目的、方法、到達目標等を伝えているが「不満」と回答する学生が認められたことから、後期の講義開始前に再度徹底する。
- ・ グループワークを中心に、学生自身で講義資料を作成してプレゼンテーション、実技と進める講義形式に批判的意見は認められないため、この形式を継続する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		高次脳機能障害作業療法 学	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

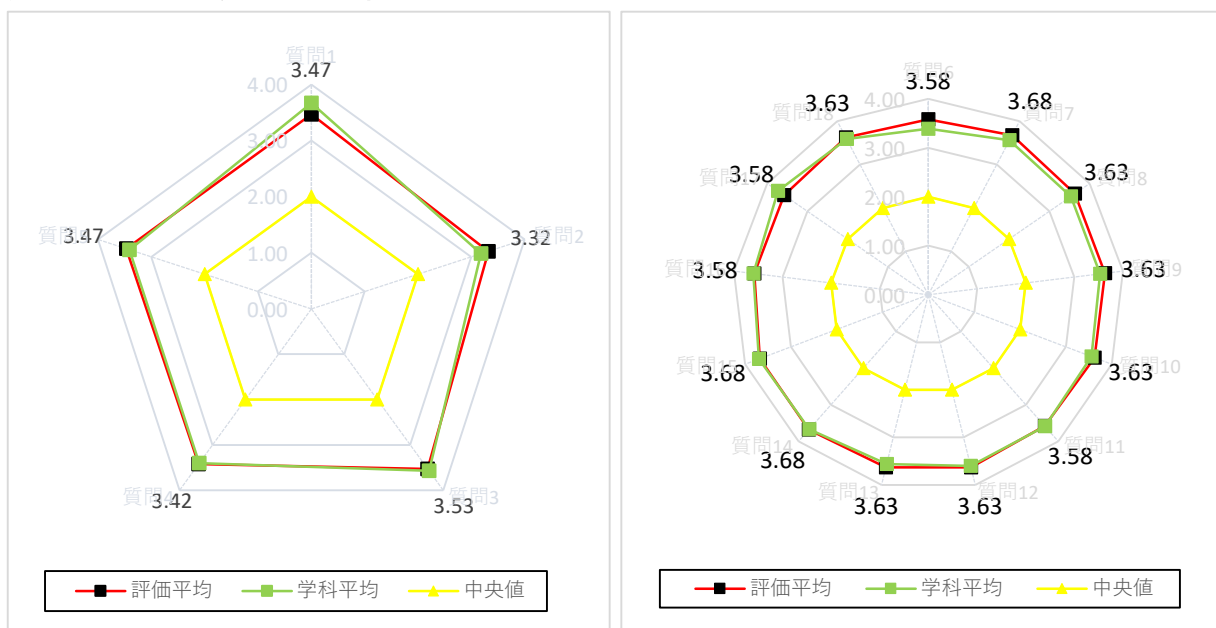
学科平均と比較し、ほとんどの質問項目が同等程度の点数であったが、質問11や質問17など、平均よりもやや低い点数の項目もあった。これらは、今回が初回担当の授業ということもあり、配布資料や授業内容で工夫するといったことがまだ足りなかったことが原因であると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

以上の分析により、次年度ではさらに授業内容を工夫し、学生がさらに興味を持つことができるような授業を実施していきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		発達障害理学療法学	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

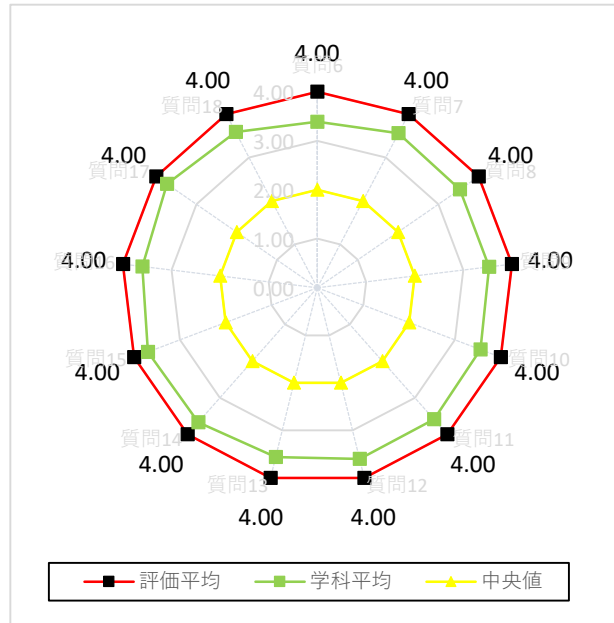
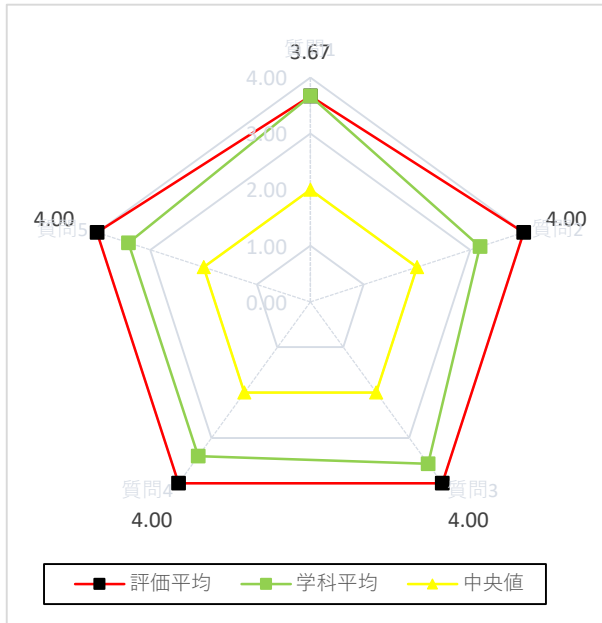
アンケートは概ね高評価であった。今年度もオンラインでの講義が主となりシラバスの変更を行った。今年度はteamsを利用することで講義資料の配布は円滑に行うことが出来た。一方で印刷資料を欲しいという要望も多かったため、登校日にまとめて配布するなど対応を行った。オンライン授業では疾患の映像を取り入れ、学習意欲の向上に努めた。対面授業を実施出来た日にはオンラインでは伝わりにくい補装具や実技などを中心に行った。また中間試験を実施し、オンラインでの学習理解を確認し、フォローが必要な学生は早めに個別対応を行った。対面授業を一部取り入れることで学生の学修意欲は格段に高まったと感じる。

(3) 次年度に向けての取り組み

オンラインで講義をする場合の教材作成を早めに行う。また社会状況でシラバスを変更する場合は紙面上でも学生に周知していきたい。発達分野の理学療法は卒業するまで臨床現場を見ない学生もいることからイメージが付きやすいよう、なるべく視覚教材も利用しながら進めていきたい。また次年度は演習の授業も新しく始まるため、講義と演習のシラバスを連動させながら進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		老年期障害理学療法学	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

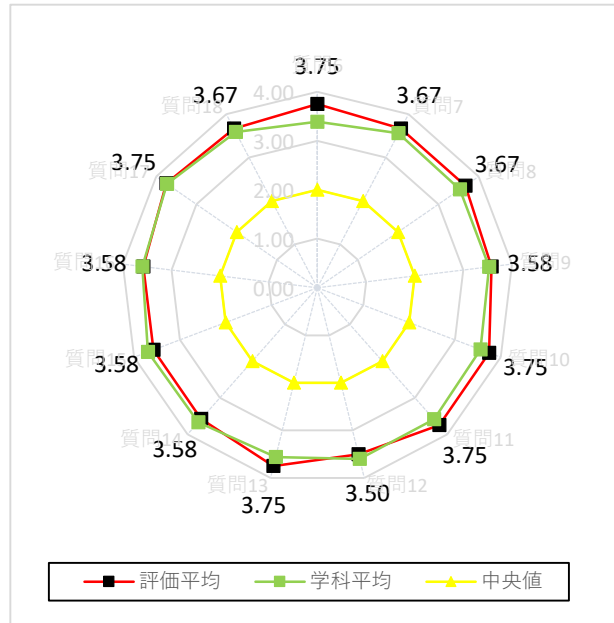
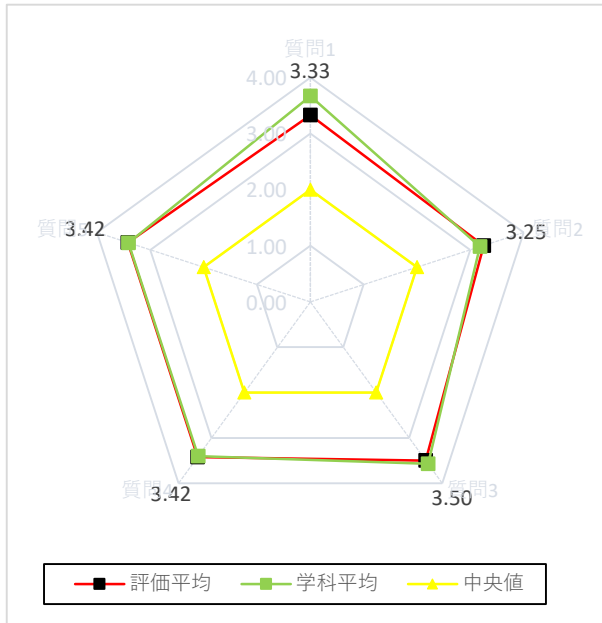
今年は全項目で結果が良かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生に臨床でのPTの仕事が創造できるような講義を試みる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		義肢装具学	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

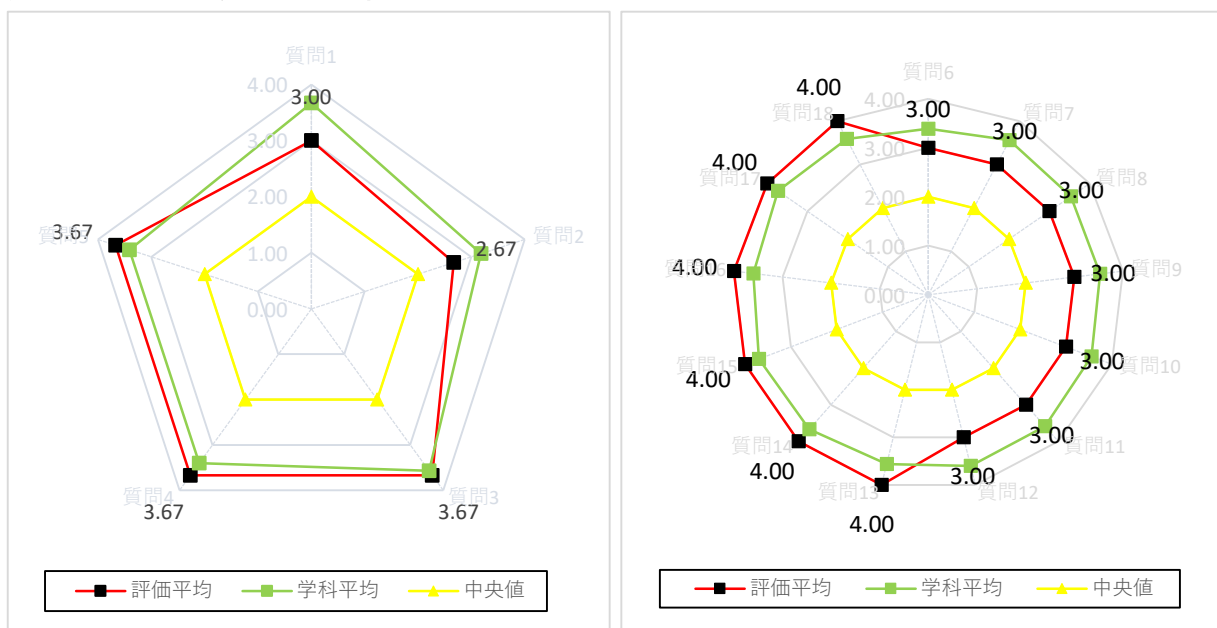
- ・ 回答率27.3% (12名/44名) は、あまりにも低い。
- ・ 総合評価 (質問18) は、「満足・やや満足」が91.7% (11名/12名) , 「やや不満」が8.3% (1名/12名) であった。
- ・ 質問15 (学生に公平に接したか) に「不満」と回答した学生が1名認められた。
- ・ 質問7 (到達目標) , 9 (工夫) , 12 (声) , 14 (質問への対応) , 16 (双方向講義) , 17 (教員の熱意) に「やや不満」と回答した学生が1名認められた。
- ・ 自由記述への回答はなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 回答率の向上を図る。
- ・ 自由記述への回答がないため、詳細は不明であるが、誠意を以て講義に臨む。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		卒業研究	34名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

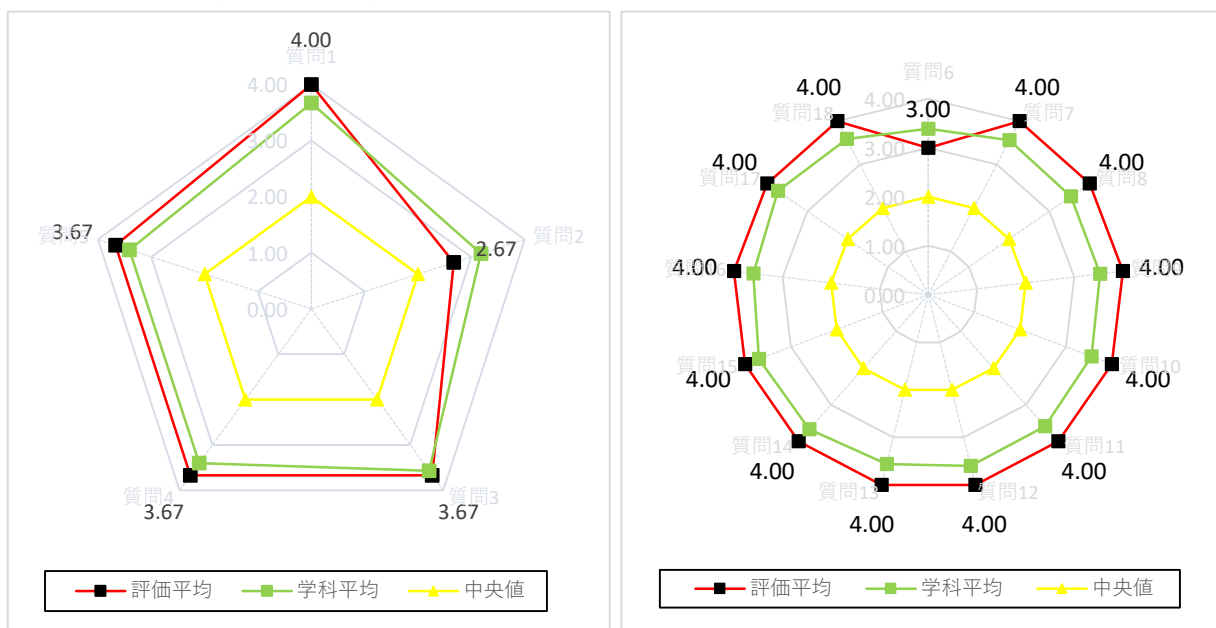
2021（令和3）年度、4年後期の「卒業研究」の総合評価は、 $4.0 \pm 0.0 / 4$ 点であった。評価が低かった項目は「シラバスを活用しましたか？」が $2.67 \pm 1.53 / 4$ 点であった。評価が高かった項目は「授業の進む速さ」「学生の質問に誠実に対応したか」「公平に学生に対応したか」「双方向の授業を行ったか」「教員は熱心に取り組んでいたか」であり、 $4.00 \pm 0.00 / 4$ 点であった。履修者34名に対し、授業評価に回答したのは3名（8%）であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、シラバスを活用した講義を展開すること、授業評価の回答率を上げることが必要である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法特論 I	34名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

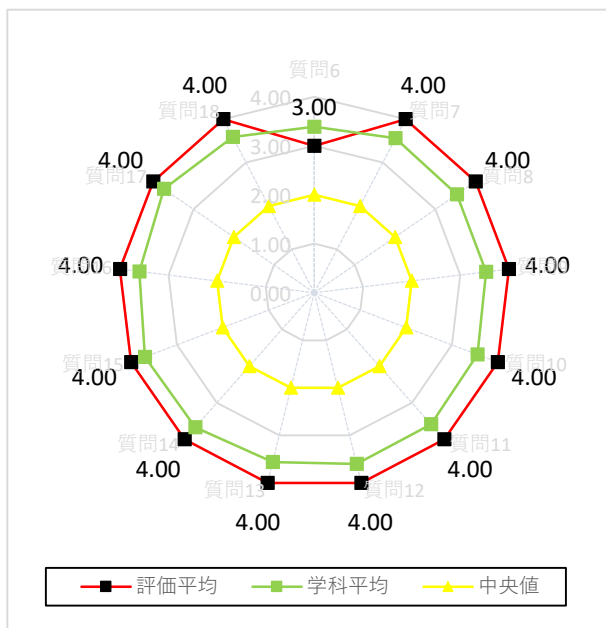
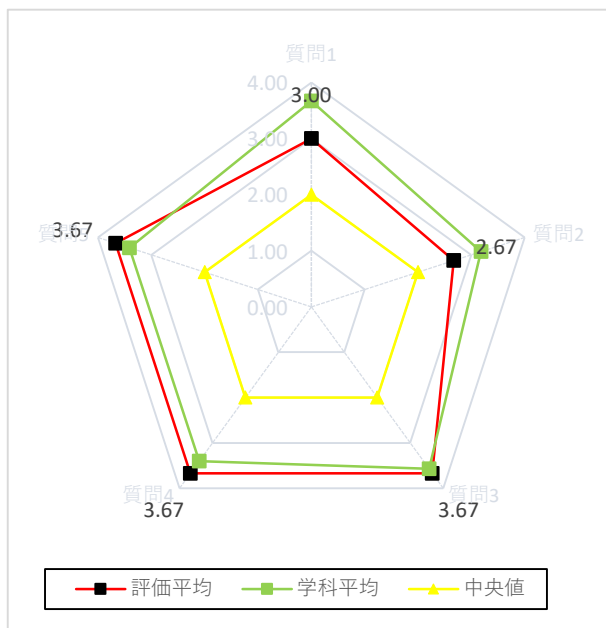
2021（令和3）年度、4年後期に開講した「理学療法特論1」の総合評価は $4.00 \pm 0.00 / 4$ 点であった。評価が低かった項目は「シラバスを活用したか」であり、 $2.67 \pm 1.53 / 4$ 点であった。評価が高かった項目は教員は、「授業の到達目標を明確にして、授業を展開していたか」「興味・関心が持てる工夫がされていたか」「分かりやすくする工夫がされていたか」「視聴覚機器や板書の使い方は適切だったか」「教科書・配布資料等は役に立ったか」「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切だったか」「授業の進む速さは適切だったか」「学生の質問等に誠実に対応したか」「公平に学生に対応したか」「双方向的なやり取りをしたか」「教員は熱心に授業に取り組んでいたか」であり $4.00 \pm 0.00 / 4$ 点であった。履修学生は34名であったのに対し、授業評価に回答した学生は3名（8%）であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度の課題は、シラバスを活用して講義を展開すること、授業評価の回答率を上げることである。科目全体の概要や狙いを示しながら講義を展開すること、講義中に授業評価に回答するように促すことが必要である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学特論Ⅱ	34名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

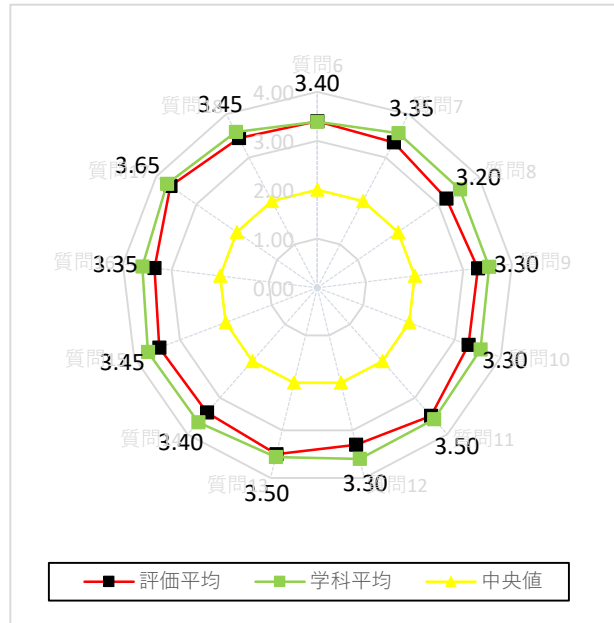
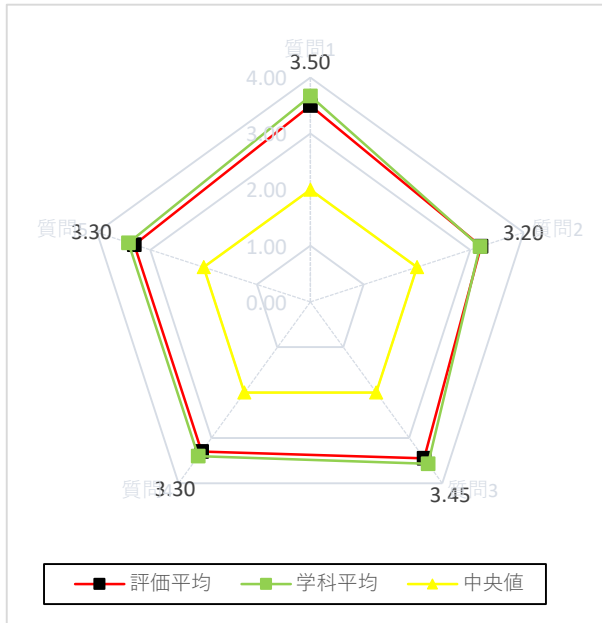
- ・ 回答率8.8% (3名/34名) は、あまりにも低い。
- ・ 総合評価 (質問18) は、「満足・やや満足」が100% (3名/3名) であった。
- ・ 自由記述への回答はなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 回答率の改善を図る。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		地域理学療法学 I	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

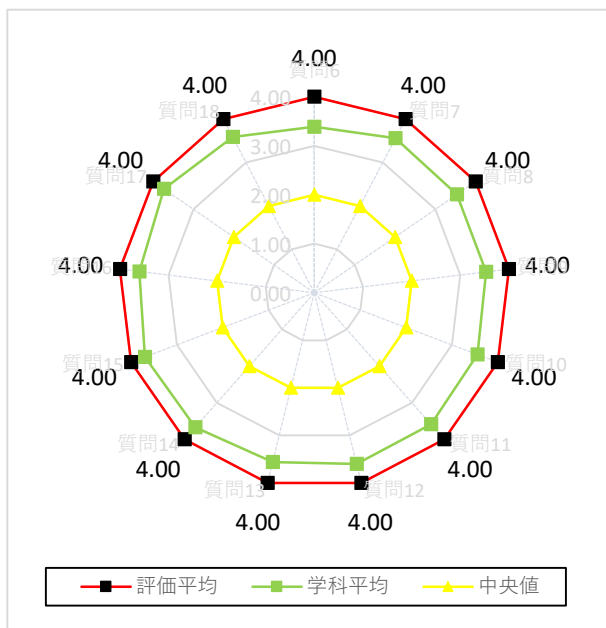
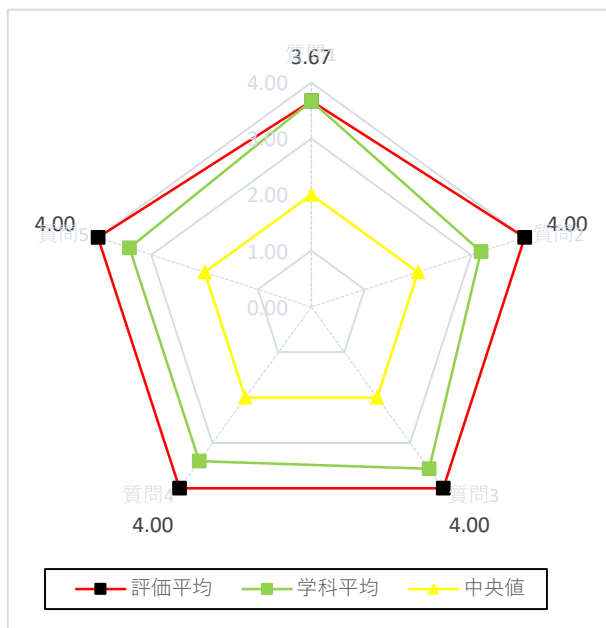
今年は全項目で結果が良かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も実践に即した講義を試みる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		地域理学療法Ⅱ	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

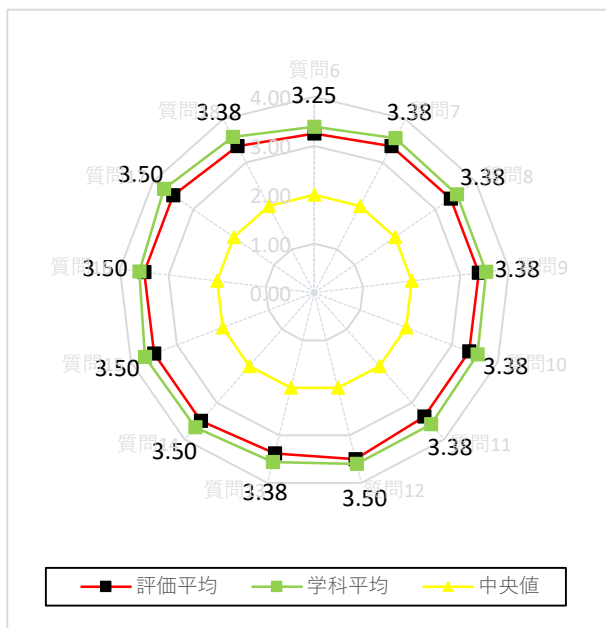
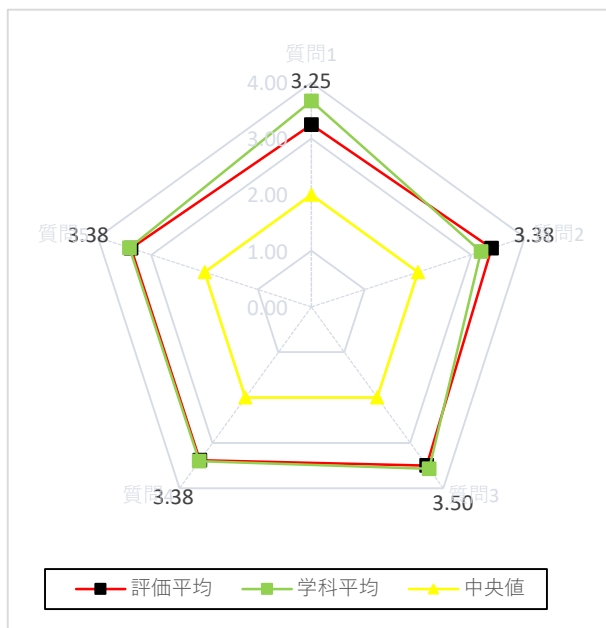
今年は全項目で結果が良かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も実践に即した講義を試みる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習 I	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

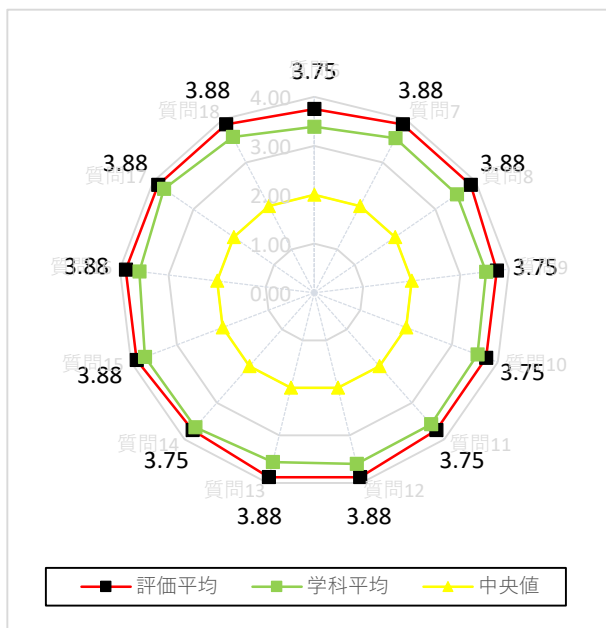
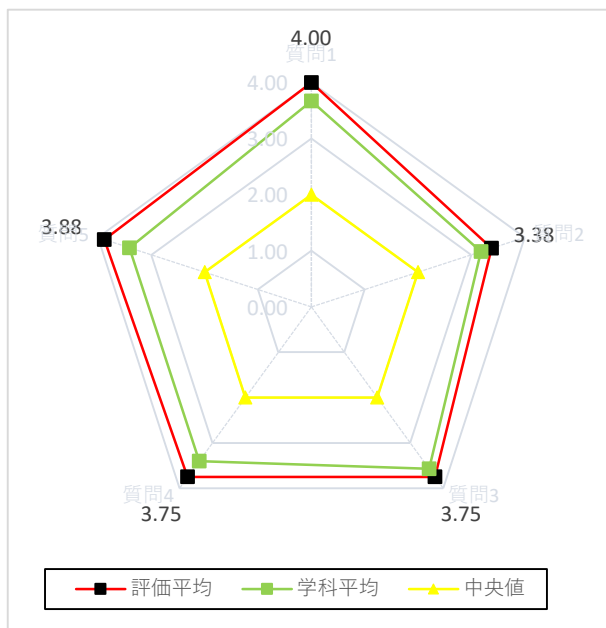
21名が学内での実習となり、対応に追われた。

(3) 次年度に向けての取り組み

コロナ禍での実習で、第6波の時期と重なった。
 実習に行くことができた学生は、ためになった様子だった。
 感染者が出ず安堵している。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅱ	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

- ・ 回答率18.1% (8名/44名) は、あまりにも低い。
- ・ 総合評価 (質問18) は、「満足・やや満足」が100% (8名/8名) であった。
- ・ 自由記述への回答はなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 回答率の改善を図る。